

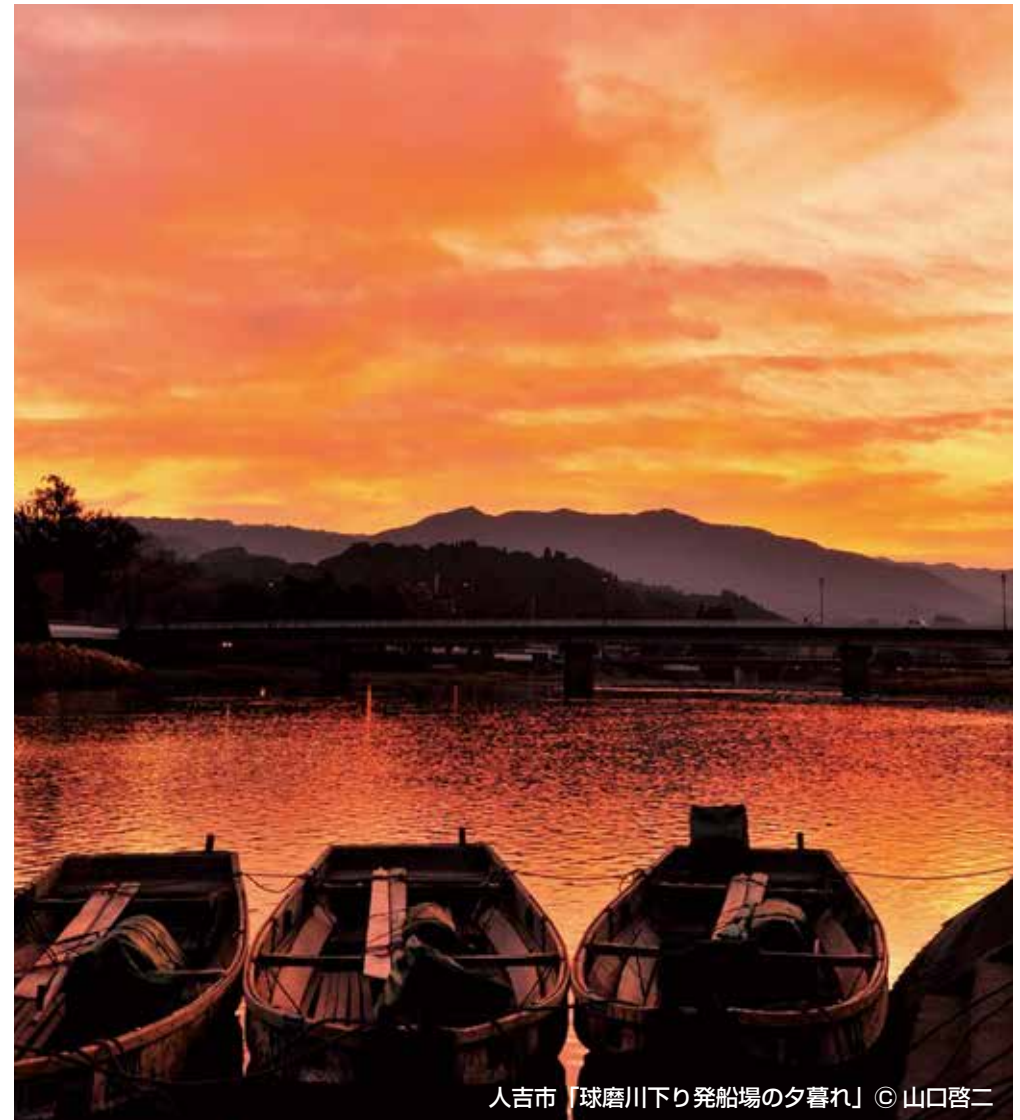
流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2019
12

第45号

「ある船頭の話」



人吉市「球磨川下り発船場の夕暮れ」© 山口啓二

月に願いを。

織月
せんげつ

Japanese Traditional Rice Shochu
SENGETSU



織月城（人吉城跡）にて撮影

織月酒造株式会社
SENGETSU SHUZO CO., LTD.

〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL 0966-22-3207

飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に悪影響を与えるおそれがあります。

<http://www.sengetsu.co.jp/>

雑誌 81779-12-9



4910817791298
00500

月刊 くまがわ春秋 第45号 2019年12月9日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 <http://www.nitoyoshi.co.jp/> info@nitoyoshi.co.jp

定価 550円 本体 500円

最近のおもな出来事

- 11月9日(土)
 ▽第70回ひとよし産業祭および人吉市林業フェア(10日、人吉クラフトパーク石野公園・道の駅「人吉」)
 ▽第31回五木の守唄祭(10日、五木村・五木源パーク)
 ▽第3回人吉球磨の偉人探訪講話(人吉市・老神神社) 11月10日(日)
 ▽第5回くまオーガニック祭り(道の駅「錦」・くらんど公園) 2019ゆのまゑ漫画フェスタ(湯前町まんが美術館周辺一帯)
 ▽第33回坂本ふるさとまつり(八代市グリーンパークさかもと) 11月17日(日)
 ▽第26回錦町文化祭(錦町勤労者体育センター)
 ▽やまゑ産業振興まつり(山江村役場前駐車場) 11月22日(金)
 ▽八代妙見祭神幸行列(23日、八代神社周辺) 11月23日(土)
 ▽第73回犬童球溪顕彰音楽祭「音楽の広場」(人吉市カルチャーパレス)
 ▽川上哲治生誕100年記念「偉業を伝える企画展」オープニングセレモニー(人吉クラフトパーク石野公園展示室) 12月1日(日)
 ▽第52回人吉市歳末たすけあい演芸会(人吉市カルチャーパレス)

今月の一言

『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より

溫柔をもつて憤怒に、善をもつて悪に、慈悲をもつて吝嗇に、真実をもつて虚偽に克て。

(「法句経」)

表紙写真

人吉市「球磨川下り発船場の夕暮れ」



12月から始まった球磨川下りの「乗合こたつ船」は人気があり、色づいた人吉城址の木々など眺めながら下る風流な体験が出来る。夕方になると人けはなく、暮れてゆく球磨川を眺めるのも悪くない。なお今年の「竿納め」は12月29日の予定。

撮影/山口啓二(人吉市)

11月号(第44号) 目次

- 求 廣川八郎さんをモデルに映画化...3
 さかもと国際児童画展...4
 公式発見100周年記念文集...6
 柳人があじわう漱石俳句...45 いわさき楊子...7
 くまがわの神さん仏さん...40 宮原信晃...8
 おつとわつとあすび...35 「砥石とトクサ」松舟博満...18
 建築みである記...40 「養林寺・善正寺」森山 学...19
 山に行こうよ...22 「内川内谷」沢登り...24
 記憶の落ち穂...44 坂本福治...25
 「あがつ段」...42 上杉芳野...26

愛の目差し、瀬戸致行先生逝く

- ご冥福を祈るメッセージ 宮原信晃...13
 南アフリカ共和国(春秋)...14
 先生のおかげです 椎葉直美...16

一井正典研究と渋谷敦先生との出会い

松本晋一...34

『なば山騒動異聞』を読む①

上村雄一...40

- 石橋を訪ねる 特別編「二侯橋」...28
 漢和字典は面白い...28 鶴上寛治...31
 はつぴいえんど「春よ来い」長船早打之...32
 「県民手帳」を考える...38
 鶴鶴短歌会 十一月詠草...45
 「戦地の便り」に見る家族の絆...5 尾方保之...46
 山崎正董著「球磨探古記」から 溝下昌美...50
 季語で一句 永田満徳...55
 倉敷便り...35 原田正史...56
 砂時計 — 思い出るままに...13 小野武己...59
 坂本工場関係資料...8 65
 小説・相良清兵衛...24 山口啓二...66
 いもご短歌会...70
 お休みどころ通信...10 興野康也...71
 ひろしのげっかん・ぎひょう...73
 外来語から学ぶ英単語...45 藤原宏...73
 方言を味わう...40 前田一洋...74
 三種の神器 久馬凌...76
 字図で見る球磨の地名...34 上村重次...78

本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
 ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

求廣川八郎さんをモデルに

球磨村最後の渡し舟の船頭

オダギリジョーさんが映画化

テレビでもおなじみの人気俳優・オダギリジョーさん(43)が初めて監督として本格的な長編映画に挑んだ『ある船頭の男』が今夏一般公開され、話題を集めている。今年トルコで開催されたアンタルヤ映画祭・国際コンペティション部門で最優秀作品賞を受賞するなど高い評価を得ている。

同作品はオダギリさん自身のオリジナル脚本で、主人公トイチは7年前まで運航していた球磨村最後の渡し舟の船頭、求廣川八郎さんをモデルに描かれている。構想が生まれたきっかけは、10年ほど前にテレビ番組で求廣川さんの存在を知り、2週間ほど生活を共にしながら取材し、脚本の草稿を書き留めていったという。



求廣川さんは、球磨川右岸の楮木から対岸の八代市坂本町のJR瀬戸石駅までを結ぶ渡し舟の船頭を約35年間務めた。



困難を極めた猛暑の新潟・阿賀野川での撮影風景
© 2019「ある船頭の話」製作委員会

撮影は残念ながら球磨川ではなく、新潟県の阿賀野川周辺で行われたが、球磨川のかつての風景を彷彿とさせる作品となっているという。

脚本・監督がオダギリジョーさんで、柄本明さんの主演。今後は全国に向け公開されていく予定。

巻頭言

あと少し、もう少し

大晦日に風呂に浸り一年の垢を落とし、この一年を振り返り来る年のすごし方に思いに至る。このような生活を理想としているのだが、いざ年の瀬になると、その理想から遠のいている。年頭の計はどこにいったのやら行方不明になりかけていた。思い返せば、幾年ものあいだ、そうやって区切りのない生活をつづけてきた。意志薄弱の結果だが年頭の課題は来年度の課題に横滑りさせればいいとの甘い誘惑が目の前をちらつき誘惑に負けそうな気分になるが、目標からほど遠くとも年頭の課題をいまからはじめ、できるだけ目標に向けて歩みを進めるべきだという正論にしたがうことにした。そこで年頭の課題「資本論を読み終える」にいま力を注いでいる。師走はなにかと忙しいけれども、それを理由にしたら、いつまでも「敗北の歴史」を重ねるだけで二歩も前に進まない。作家瀬尾まいこのいうように「あと少し、もう少し」の精神がどうしても要る。

年頭の目標ではなからうが、受験生も師走は頑張りどころであろう。入試日まであとわずか。まさに「あと少し、もう少し」だ。進学先によって人格が変わるわけではないが、受験は重たい。特に中学生にとつては、不合格を許されない雰囲気ができあがっている。受験生だけでなく、両親も不安・心配で胸が痛いだろう。通過儀礼・学力の自己点検と割り切れないものが入試にはある。そのことを考えれば「資本論を読了する」はゆるやかな目標にすぎない。

そういうことを考えていたら、資本論の新訳が出版中であることを知った。新訳を購入すべきか。こういうときには購入するに限る。後悔しないためには購入するしかない。こうやって新しい本が次々に机の上に重なっていく。師走は本を整理する格好の機会なのに、逆方向にむかっているが、悪い気分ではない。

他人から「あと少し、もう少し」と指摘されたら嫌だし、他人に向かつて言うべきではないが、「ていねいに生きる」ための自己の基準として、この言葉を大切にしたい。

(春秋)

さかもと国際児童画展

坂本町、熊本市、小樽市で開催

熊本地震復興チャリティとして2年前からはじまり今年で3回目。「えがお」「わたしからのプレゼント」につき、今回のテーマは「わたしの夢」。パン屋さん、消防士さん、サッカー選手になりたい気持ちいっぱい

絵のほか、友だちや家族の姿を描いて仲良くしたい気持ちをメッセージにした絵が会場で紹介された。

アメリカ、オランダ、ミャンマー、



この絵がいいね。



オープニングセレモニーでのひとこま。和太鼓を打つ園児は真剣そのもので、その真剣ぶりがいい



坂本中学校の生徒は綿菓子づくりが上手い

タイ、カナダ、中国、インドネシアなどの世界各地と北海道から沖縄までの全国各地から寄せられた子どもたちの絵の総数は2500点以上。坂本町ではそのほとんどを展示（9月14日から同23日）。熊本市内（11月15日〜同25日）で約300点、小樽市内（11月23日〜12月1日）では

約270点の絵が並べられた。小樽市（北海道）での開催は今年がはじめて。小樽会場では熊本産の味噌などを販売。その収益は北海道胆振東部地震被災地の厚真町に贈られた。

児童画をみて思うのだが、構図・

色彩など、子どもたちの筆触は自由在。奔

放で明るく元気をもらえる絵がほとんど。同時に、子どもたちの観察は鋭く、大人として反省を求められるときもある。ある国の子どもたちの絵をみて、その国の国情を改めて調べることがあった。アメリカについても知っていることはひどく少ないことを知る。子どもや孫の絵をみつけ、その成長をよろこぶみなさんの姿も別の意味での絵であった。

主催は坂本住民自治協議会、文芸春秋社社友で坂本町出身の上村美鈴さんが全体の進行をプロデュース。児童画展開催にいたるまでの経過については、上村美鈴「子どもたちの笑顔」本誌19号5頁以下に詳しい。

（春秋）



熊本会場（NTT 会館・スマートひかりスクエアくもと）。橋本櫻さんの「紙芝居」が上演されたほか、同会場の大画面に、終日、「坂本ケーブルテレビ」の映像が流された。坂本町出身のみなさんは故郷をなつかしく感じたであろう。



熊本市内は人通りが多く、野外での紙芝居と「お絵かき」もおこなわれた（写真は橋本櫻さんより）



小樽会場（ギャラリー「あとりえ・クレール」）写真は上村美鈴さんより

公式発見100周年記念文集

球磨川ツクシイバラの会が発刊

球磨川のツクシイバラ公式発見から100周年を記念した文集がこのほど完成し、11月27日の「球磨川ツクシイバラの会」の祝賀会の席上で披露された。

文集は「球磨川のほとりに咲くツクシイバラ」と題したフルカラー36ページの冊子で、2017年2月か



完成した記念文集

ら2019年11月までに本誌に掲載された18名の文章の他、ツクシイバラ発見の経緯や特徴などを掲載、巻末には同会の活動を紹介した新

人吉市で偉人に学ぶ会



人吉・球磨が生んだ近代日本の先覚者たちを次世代の子どもたちや地域の人々に発信し、活用してもらうことを目的する「人吉の偉人に学ぶ会」（松本晋一会長）の講座「人吉球磨の偉人探訪」が11月9日、人吉市の老神神社でが開かれ、戦争終結に奔走した高木惣吉と反骨のジャーナリスト吉岡文六についての講話があった（写真）。

聞記事なども収録されている。

同会では、広く一般にも配付することを目的に、活動募金を兼ねて一冊千円での購入を呼びかけている。

お問合せは、同会会長の桑原史佳さん（福島保育園 ☎0966・38・0260）まで。

「草枕」への道

明治30年の年末29日（推定）、漱石の第三旧居（当時は大江村にあった。現在は水前寺公園ウラに移築されている）から、五高教師同僚の山川信次郎と小天温泉に徒歩で向かった。金峰山の北を通る山越えの23kmの旅だ。もちろん着物に下駄。昔の人は健脚だ。そして前田家山子家別邸で過ごした数日間をもとに小説「草枕」（明治39年発表）が書かれた。

この旅で詠んだとおもわれる句が残っている。天候や過ごした年末年始のようすが手にとるようにわかる。漱石30歳のときである。その旅の道沿いに句碑が建てられている。



前田家別邸にて

かんてらや師走の宿に寐つかれず

（前田家別邸）

温泉の山や蜜柑の山の南側

（熊本市・玉名市境界）

天草の後ろに寒き入日かな

（野出の茶屋公園）

旅にして申訳なく暮るゝ年

うき除夜を壁に向へば影法師

酒を呼んで酔はず明けたり今朝の春

馳け上る松の小山や初日の出

甘からぬ屠蘇や旅なる酔心地

温泉や水滑かに去年の垢

（小天温泉那古井館前庭）

柳人があじわう漱石俳句

— (45) —

いわさき楊子



家を出て師走の雨に合羽哉

（石畳の道の入口）

降りやんで蜜柑まだらに雪の舟

（南越展望所）

温泉をつなぐとでける日本地図

たぶん雌温泉玉子おいしいな

露天風呂猿に戻つてしまいたい

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

くまがわの神さん仏さん 40

五木村・五観音巡り

―初めて知る五木村の観音様たち―

宮原信晃

何年も前に五木村の犬童雅之さんから、「写真で観るいつき村の遺産」という五木村教育委員会出版の本を頂いた。その本の中に挟んであった一枚のメモ用紙に、五つの観

音堂の名称が書かれていた。

「北瀬目観音堂、九折瀬観音堂、入鴨観音堂、梶原観音堂、山口観音堂」というものであり、「出来れば、五木じゃつで、五カ所の観音堂

まず五木村の道の駅からスタート。編集部（ま）さんと、運転担当の西崎孝子さん。昼食は蕎麦定食（下）。



を巡るように、観光も信仰も巡ってもらえばと思います」と犬童さんがおっしゃった。その本を持ち、秋晴れの午後から友人達と五木村へむかった。

五木村に来たら、まずは腹ごしらえ。五木温泉夢歌という施設の中に食堂で美味しいお蕎麦を頂く。

五木村の観光案内所で観音巡りの地図をもらう事とした。前日から「道の駅子守唄の里五木」の駅長牛嶋将克さんが観音堂の場所を詳しく調べて、要点を書き入れてくれた用紙をもらって出発した。



山口観音堂は「小鶴トンネル過ぎて分かれ道を左へ5〜10分、山口集会場の横」との説明文に何の疑いもなく進む。教えてもらった通り左へ入ったが、道が狭く暗く何か出そ

うな雰囲気。180度のスピンカーブがあり、これを登ると帰れないのではと心配で、下の集落を歩いて探索。山口集落の一番奥に確かに山口集会場があった。さっそく、数珠・線香・ロウソクを持ち、手を合わせ

てお参りをした。

堂々たる聖観音様であった。

木像ではなく、石像と見たが定かではない。だが着色の色から見て大正時代の後期から昭和の初め頃の作だろうと愚考した。

なかなかの作である。何枚も写真を撮って次の入鴨観音堂へ向かった。

竹の川の上流に向かい、そこから左へ上っていく。「もうそこばい」と何度も言うが着かないのである。山

道の紅葉の落葉のジュウタンを新車が上る。新車の持ち主は女性で、運転手もしてくれ、「私の新車の初乗りが、こんな山道でドロだらけじゃん」ととぼやく。

何度かぼやきを聞きつつ、新車は奥へ上へとカーブを切り



まだ真っ白な新車だったが...

ながら上った。

「ここが入鴨観音堂ばい」と言っても運転手さんは車から降りて来なかった。

お堂に入り、観音様に手を合わせた。

永正八（1511）年と古い観音様で、少しお疲れの表情にも見えた。

ヒストリアテラス五木谷という施設に借り出され、何度もこのお堂から出張されたのでお疲れなのだ



山口観音堂内の聖観音像



集落を守った九折瀬観音堂の大イチョウ

に置いた。さあ、急坂上りである。運転手さんは、当誌（ま）さんの腰を握って何とか上って行った。「ここは、九折瀬観音堂です。数年前にそれは大きな山崩れがあり、あの山の上から土砂がドドドドッ」とこの集落を襲いました。

その時です、この推定五百年の大イチョウがその土砂を真つぷたつに分けたのです。このイチョウが無かつたら、この集落は全滅だったのです。しかも、この観音堂に入ってきた土砂は、神様・仏様が鎮座される台の下まで入ってきて、今にも土

砂で飲み込まれるというとき、観音堂の一枚の壁板が抜けて、土砂はそこから観音堂の外へと抜けたのでした。神様・仏様にはドロの一粒も付かなかつたのです！。絶好調な私。「もう、それで良かで帰ろい」と運転者さんが言った。ここで帰るところとする。お堂の中の神様・仏様が、ちよつと、お淋しかったかなあ〜と思いつつも、急坂を滑りながら歩いて下へ下りた。

見事に真つ白かつた新車は泥だらけで、夕方の暗い闇の中を走って人吉へと向かった。

翌日はご自分の新車の姿を見て怒り心頭か〜。すこし、こわ〜い！。

【みやはら・のぶあき／FBお地藏さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】



不思議な頭の冠は十一面観音様か（梶原観音堂にて）

ろうか。銀杏のステージに包まれた入鴨観音堂に別れを告げて、いざ、梶原観音堂へ、又、上った。途中で工事中の大型ダンプや大型ショベルカーを交わして車は上った。観音堂は梶原公民館前の斜面にあり、看板の文字は見えなくなっていた。

とびらの門を外し中へ入った。4体の仏様がずらりと立ったり座った。

たり椅子に腰掛けたりしておられた。資料には地藏様に、「文政九（1826）年」と記載があった。そのお地藏さんの左には小まめな彫りの千手観音様がおられ、その左にはどなたか分からない仏様がおられた。

不思議な頭の冠をしてもらって、写真を撮ってから、なるほどと分かった。「十一面観音」様である。

頭の真正面が縦に少し長く、ここが阿弥陀如来様が立っておられる姿かと気付いて、十二面観音様と判定。

頭の形から友人の「神像？」といった言葉を用いるところ

だった。

仏様は納得するまで睨んでも、頭・手の印・手足の本数・持ち物など、謎解きをしなければ、尊名（仏様のお名前）が分からないのだ。4体の仏様の尊名がわかり、安心して梶原観音堂を後にした。

本日最後の場所は、九折瀬観音堂である。一度、頭地方面に帰り、そこから北へ向かい、道の最後の場所から右へゲンと上る。さすがにづら瀬、何力所もくねくねと曲がり登る。

新車の足元は、紅葉をはるかに踏んで、「何で今日はこの車を使うの？話が違うじゃないの。宮原さんの車を使うと言っていたのに」と、もうブツン限界か。新車の足回りは泥で汚れ、九折瀬集落の下の駐車場

愛の日差し 瀬戸致行先生逝く

本誌の執筆陣でもある、産科医の瀬戸致行^{せとちやう}さんが11月26日午後8時32分、人吉市内の病院で逝去された。86歳。

昭和8年、長崎市生まれ。人吉高校を卒業後、熊本大学大学院医学研究所を修了後、同大学医学部付属病



2018年9月1日、「人吉くま映画文化協会」の役員会にて

院、人吉総合病院を経て、昭和46年10月に人吉市西間上町に瀬戸産科婦人科医院を開院。平成19年の閉院までの36年間で1万5644例のお産を手がけた。

最近まで社会福祉法人「白いキャンバス」の理事長や「人吉くま映画文化協会」の会長を務めていた。

本誌にもたびたび寄稿され、病氣についても、「恥ずかしい医者の不養生」33号70頁、「病氣と私」34号68頁・35号68頁で率直に語っていただいた。後者が先生の絶筆となる。

瀬戸致行さんのおもな著作



『シブドクター・産婦人科医の「つわり」体験記』(2014年5月、私家版)



『人吉球磨手をつなぐ育成会、48年間のあゆみ』(2008年11月、同会)



『Dr. 瀬戸のABC 実践・性教育』(2004年、ぶらんどデザイン工房)

ご冥福を祈るメッセージ

宮原信晃

人吉おおくま座の会（F B）に届いたご冥福を祈るメッセージを紹介します。

堀尾里美 私も、子供2人とも瀬戸先生にお世話になりました。偉大な方です。今日、お通夜に行つてまいりました。悲しいです。

宮崎絵美 お仕事でも出産でも大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

山村光代 2人の我が子を取りあげて頂きました。お悔やみ申し上げます。

奥様と瀬戸先生（2015年頃、八代宮にて）

刈田智子 母が、妹との出産で、お世話になりました。ご冥福を祈ります。

磯崎聡子 息子の出産でお世話になりました。とても優しい先生でした。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

村口和彦 本願寺人吉別院の責役を先生から引き継いだばかりでした！ご指導していただかねばならぬ私でしたのに残念でたまりませんが、きつとお浄土よりご指導いただけますね！お悔やみ申し上げます。合掌

御手洗理代 致行先生がお産から勇退される頃私は人吉に行きました。そして乳がん、子宮がん検診に精力的に取り組まれていました。勉強会には必ず参加され、質疑応答にも発言し、先生は医療の勉強が好きなんだなあ、素



ポートエリザベス（南アフリカ共和国）比較的に立派な建築物がありました（1968年5月15日）



ケープタウン（南アフリカ共和国）。背景はテーブルマウンテンとライオンヘッド（1968年3月28日）



ダーバン（南アフリカ共和国）。やっと着く。（1968年3月24日）

の死であった。24年では時間が足りないであろうか。マンデラの時代に、黒人と白人の壁が完全に無くな

ることはなかった。いまでも、なくなっていない。

南アでは「ラグビーは白人のスポーツ、サッカーは黒人のスポーツ」とされているのだ。瀬戸致行先生は、そういう状況をご存じで、人種の壁がなくなること、黒人に集中している貧困状態が一掃されることを切望されていた。先生は産科医だが、68年に貨物船の船医としてアフリカ

でもそうであった。南アの代表チームが優勝したとき先生に、南アの課題について原稿を書いていただくと思っていた。これからアフリカの時代である。南アの課題はアフリカの課題を凝集しているからである。

（春秋）

宮原加奈 ご冥福をお祈りいたします。私も先生に取り上げていただいた一人です。私の命が芽生えてお腹にいたときから先生が見守ってくださったお陰で元気に生まれてくることができましたと思います。きつと、私を一番最初に両手で抱いてくださった方になるんだと思います。ありがとうございます。合掌

薮毛勝輝 母が同級生で、妹が出産の

晴らしい聖職者だと思ってきました。先生のご冥福をお祈りします。そして私も勉強を続ける人間でありたいと思います。

木崎康弘 我が子、長男、長女もお世話になりました。お悔やみ申し上げます。

南アフリカ共和国

那須朝美 ほんとに、恐れていた日が……。ほんとに素晴らしい先生でした。携われた事、感謝、幸せ、宝物です。

時お世話になりました。お悔やみ申し上げます。

他に（一柳優治、岩崎円、春木顕、中川和代、合田香、牛嶋将克）様からもお言葉を頂きました。（人吉おおくま座の会事務局長）

今年のワールドカップで3度目の優勝を飾ったラグビーの国。黒人選手（シヤ・コリシ選手）が主将だったが、彼の人種を話題にする人は殆どいなかった。アパルトヘイトは死語になったと感じた人も多かったろう。それよりはるか前の1994年4月、同国史上初の全人種参加の総選挙が実施されてマンデラが大

統領に就任している。その時点でアパルトヘイトは終了したと判断している人もいるだろう。44年から89年までの27年間獄中生活を余儀なくされたのち、彼は大統領に選出されて、「人種の対立することない虹の国をつくらう」と宣言したのであった。2013年12月に彼は天国に召された。大統領就任から24年後

先生のおかげです

椎葉直美

妊娠の兆候が見られたその頃、私は鹿児島から球磨郡へ嫁ぎ間もなくのことでした。どこの病院を受診しようか考えていたところ、義母も瀬戸先生にお世話になったとのこと、導かれるまま「瀬戸さん」を選びました。二〇〇一年三月のことでした。

初めての妊娠であり、まだ球磨郡に住み慣れていないこともあったので、実家に甘えようとちよくちよく帰省したかったのですが、先生は妊娠中に長時間車に乗ることに否

定的で、「お産する時に帰れるのだから、それまでは帰らなくてもいいでしょう。」とおっしゃいました。最初のうちは先生の言うとおりにしていましたが、安定期を過ぎてしばらく経った頃、我慢ならずに内緒でこっそりと帰省したことを、先生は許して下さいました。

二人目、三人目を妊娠した際も「瀬戸さん」を受診し、「上のお子さんはお元気ですか？」と、気に掛けていただいたことがとても嬉しく、先生の凛とした笑顔や優しい

言葉が忘れられません。妊娠後期で逆子になった時に、先生の愛の手と言いますか魔法の手で、お腹の上から胎児をぐいっと掴み、正常な位置に戻してもらいました。その処置はかなり痛かったのですが、こんなことができるのかと、先生の施しに感銘を受けました。

私が妊娠中に子供の性別を聞かずにいたのは、瀬戸先生に性別を尋ねても教えてくれないのだと、当時周囲の噂で聞いていたので、本当は聞きたかったのですが、三人とも産まれてくるまで聞けず終いでした。そのおかげで、生まれた瞬間に「元気な男の子ですよ」「女の子ですよ!」と聞かされる喜びは格別でした。一人目、二人目は里帰り出産をし、三人目こそは瀬戸先生にお



先生は、この写真を見て、とても喜ばれた

産を委ね大正解。とても楽な安産でした。分娩台から隣の部屋のベッドへ移動する際、先生は六十キロは

どあつた私をお姫様抱っこしてくださいました。その時はやはり先生が、白衣の王子様に見えました。

二〇一六年四月『くまがわ春秋』創刊号に「母親たちの春」というタイトルで私の原稿を載せてもらう際、生まれたばかりの娘を腕に抱く私と先生が写る写真を貼付しました。光栄にもそれが先生の目に留まったことで、四月二十一日お電話をいただきました。その時も私たち家族のことを気に掛

けて下さいましたし、「これから本誌を毎月楽しみに読みます、もしもお身体のことでも心配なことがありましたら息子さんが勤務する病院を受診して下さい、またお電話します」と、家族のように温かい言葉を掛けて下さったことを今こうして思い出すと、涙がこみ上げてきます。先生ともう一度お話ができるのであれば、伝えられなかったこの気持ちを届けたい。

【しいば・なおみ／あさぎり町】

※瀬戸致行さんの追悼特集は2月号にも掲載する予定です。



写真① 旧平河原町（旧呉服町）の通り

建築みてある記 ④

養林寺・善正寺をあるく

森山 学

八代の中心市街地、本町三丁目アーケードの西端から南へ下ると、通りをはさんで二軒の寺院が建ち並ぶ。養林寺と善正寺である。

ここは八代城下町の旧「平河原町」で、江戸時代後期には「呉服町」とよばれる小名があった。通りは南端で球磨川の支流、前川の堤防につき当たるが、ここにはかつて上方からの呉服などを荷揚げしていた荷揚場があった、川口番所がおかれていた。そのため小さいながらも呉服商が並ぶ裕福な町だったようである。

一帯をあるけば、盛光寺、安養寺、

正教寺、見松寺といった寺院、さらには善正寺から鳥居を目印にして旧徳淵町の小さな路地、「春日小路」へと入りこめば、古春日、その先の堤防の上に恵比須さんの石祠というように、豊かな杜寺のまちなみを楽しむことができる。

とくに養林寺と善正寺の界隈では、その豊かさを存分に味わえる。最寄りのバス停は正教寺前の「本町三丁目」で、ここから徒歩三分。それでは、界隈を歩いてみよう。

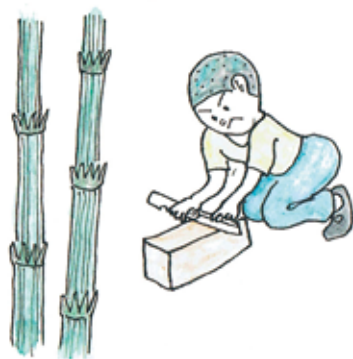
アーケード側から通りに入れば、まず左手に三重塔が見えてくる（写真①）。こんな細い通りで木造の塔に出会えるとは、と驚く。これは養林寺の三重門である。それが次の驚きとなる。重層の門は楼門、そのうち屋根が二層になっているものを二重門とよぶ。三重門という事例は、全国

おっとわっとあすび その③

絵と文／松舟博満

砥石とトクサ

いつごろからかは、わからんばつてんが木ば切っためん石斧ん出けた頃からじゃつどうで、縄文時代よま古うから有ったとかもしれん。縄文時代の遺跡からにや石斧ば砥ぎやいた丸う長ごう凹んだ痕の有つ砥石ん出てくつで、ハマグリんごてえなつとつ刃ば、凹のちいところつで砥ぎおらいたとじやろう



で、砥石や青銅器や鉄器よま早ようから有つて、鉄の時代んなればどぎやしたつちや砥石のいんめえひなつたとじやつた。多良木の奥野城ば掘った時ん付近の砂岩の川原石ば砥石んして使こつてあつとんずびや出てきて、中にや粘板岩の仕上げ砥石んぐたつとも有つた。中世城の中にや数は、少なかつたいどんが天草砥石の出た所んの有つたで、そんな頃はもう天草砥石の良かちゅうこんの知れ渡つとつたとじやろう。

肥後の守んコガタンば砥ぐ時にやアマト（天草砥石）ん置いてから、砥ごうぐたつ所んの鑄よま刃先ん方ば指先で押さえて、刃先から鑄ん所んまで砥石ん当つて砥いで刃先んザラツとすつげえなれば、反対側も同じてして、刃がえりん無かめえひなれば切るつげえひなる。

砥ぐ時ん握つとる手でこねじん砥がんば、刃先ん方ばつかり砥げて丸砥ぎんなつて、いつちよん切れんめえひなつてなあ。

トクサ

トクサちゅう草ん有つて、つくしんぼうば太うなして背ば高こうなしたぐたつとで、冬でつちやひつ枯れじいになや青々しとつた。

そつば広げて重石ば乗せて平らんしたとでコガタンのサビくれた所つば磨けばピカピカんなつたで、今ん耐水ペーパーと同じんぐたつた。

昔ん師も良う使いおつやいたで、砥石の代わりんなる草じやつで、「砥草」トクサて付けらいたとじやつどう。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



写真④ 善正寺の庫裏

土蔵造りの建物との間に東門を開けている。
 こちらは下屋より下の壁を簾子下見板張りとし、上を漆喰塗りで仕上げている。軒は漆喰で塗りこめること



写真② 養林寺の三重門

的に見て、他に事例があるだろうか？
 そもそも養林寺は、細川三斎が豊前から八代へ入城する際、開山上人が三斎に随行して来たことが始まりと伝えられている。三斎から現在地を寺地として拝領し、「八代郡誌」によれば寛永十年（一六三三）に創建している。
 この三重門は、三斎を迎える御成り門として建設されたそうである。つまり格式高く特別に築かれた門である。



写真⑤ 大黒天の瓦

なく木材をむき出しにし、下屋の出桁は線形のある腕木で支えられている。この下屋がそのまま隣の建物まで伸びて、門にかかる屋根を兼ねている。本瓦葺きである。また二階の

その後、天和年間（一六八一〜八四）頃から享保元年（一七二六）にかけて三度、火災に遭っているようであるが、門もまたその度に焼失したかどうかは不明である。
 現在の門は、昭和五六年（一九八〇）に改築されたものである。二層、三層は豎羽目板張りの外壁で、三層の軒下に蛇腹支輪、二層の軒下に欄間格子を入れている。全体に目立つた組物や彫物はないが、二層三層の壁に火灯窓に見立てた飾りがつけられ、屋根の頂には宝珠をのせている（写真②）。
 また下からのぞく



写真③ 八代城にあったと伝えられるやぐら太鼓

と確認できるが、門の中には寛永三年（一六二六）と記されたやぐら太鼓（写真③）が吊られている。これはもともと八代城にあったものと伝えられている。
 さてこの三重門の向かいには、善正寺の庫裏の軒が連なる（写真④）。左手は土蔵造り、棧瓦葺きで、腰壁をなまこ壁としている。窓には親子格子が嵌められ、格子の足元に犬矢来が置かれている。
 右手には塗屋造りの建物があつて、

壁には鉄格子が嵌められた四方入隅型の窓が開けられ、その前に恵比須と大黒天の瓦が、京町家の鐘馭のように置かれている（写真⑤）。
 ところで善正寺の由緒についてここで触れておこう。もともと善正寺は寛永元年（一六二四）、芦北町佐敷に創建され、正徳元年（一七二一）に現在地に移転している。これは寛永八年（一六三三）に新寺の建立が禁止されたあとの移転である。これが八代城下町の最後の寺院の建立となった。
 さきほどの庫裏の隣、通りに沿って土堀が続き、この土堀に立派な四脚門（文化六年＝一八〇九）（写真⑥）が開く。
 門の組物は連三斗の二手先、中備えは出組で拳鼻がつく。これらの組物間に植物紋様の臺股が三つ加えら



写真⑧ 善正寺の本堂

【もりやま・まなぶ／
高専教員、一級建築士、
八代市】

門から本堂を覗き
見れば（写真⑧）、
蘇鉄などの植栽や石
組、挽白などによっ
て作庭された境内
を、参道が三間幅の
向拝に向かって斜め
方向に伸びていく。
向拝の虹梁に、宝珠
を手にする雲龍が彫
られた墓股があつて、
これが大きく、向拝
全体に重厚な印象を
与えている。



写真⑨ 本堂の鏝絵



写真⑥ 善正寺の四脚門

れる。この植物は、中央が蓮、左右
にカキツバタと、もう一つは特徴的な
矢じり状の葉っぱからオモダカではな
いかと思われる。墓股の上に蛇腹支

輪がつく。本
柱の柱間中央
には入子菱の
欄間がある。
門扉は棧唐
戸であるが、
棧のデザイン
は卍崩しと
なっていて特
徴的である（写
真⑦）。扉に
は寺紋の日足紋と浄土真宗の宗派紋
である下り藤が描かれている。
門の隣、ちょうど交差点の角には
鐘楼があつて、この辻の風景を特徴
づけている。
本堂（写真⑧）の方は入母屋造平
入りで、しころ屋根である。しころ
屋根は屋根が二段になっていて、下
段の屋根を下屋のように見えるもの



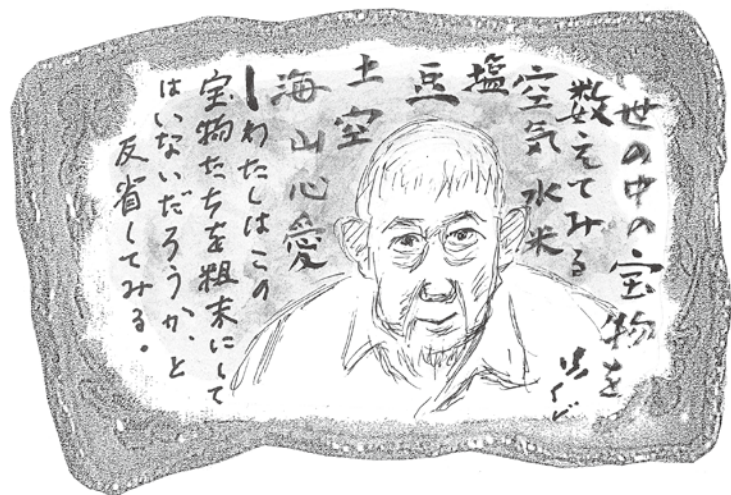
写真⑦ 四脚門の門扉

であつて、兜のしころに似ていること
から、こう呼ばれる。これは寛文八年
（二六六八）以降の江戸時代に建設
された寺院によくみられる屋根のか
たちである。
本堂の妻や軒下にある鏝絵（写真
⑨）が外観の特徴のひとつである。
各々、墓股風の菊水と雲龍を題材に
している。

記憶の落し穂

その ④

絵と文／坂本福治



詩人高木護との出会い

誠に奇跡的な出会い。絵画研究所の心ひかれる女性と会う約束をして、名のある庭園で写生をしていた。彼女は来なかった。そこへ未知の写生グループの女性が話しかけて来た。水曜日にクロッキーをしているが、参加しないか、と言う。運良く、私の休暇は水曜日だったので、行くことにした。会の名は「美世会」。東京・自由ヶ丘にあった。クロッキーが終わると「セシボン」という喫茶店に入った。ジュークボックスに百円玉を入れて、「テネシーワルツ」を聴いた。皆、心やすらぐ人たちだった。

この会は文集も出していた。私が祖父との釣りのことを書いたら、東條英機と大げんかをしたという年輩の会員から電話がかかり「坂本さん、いいじゃないですか」と。美世会の総会で、何となく聴きにくい話をする男性がいた。会が終わって、彼から呑屋に誘われた。酒は初めてで、つらかった。この人が高木護さんで、長年賀状をかわし、詩集を頂いたりした。最近、あの世の人となった。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

山に行こうよ！

その 22

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

2019年8月4日(金)
天候：晴れ 参加者：5名

万江川支流 「内川内谷」沢登り



内川内谷の「大滝」

2019年8月4日、沢登りの日。梅雨明けが遅れ、一週間前まで雨が降り続き、万江川が増水して渡渉できるか危ぶまれましたが、急流万江川、当日までには渡渉出来るくらいに減水していました。

沢木集落の下の広場に駐車し、沢靴に履き替え、万江川の渡渉点に急坂をゆつくり降りていく。8時30分出発。対岸の沢の入り口には背丈位の岩から落ちる滝があり、脇を巻いて登っていきます。入り口から直線距離で約800m位(地図上)までは、小滝がいくつもあり、巻いて登っていきま

す。やがて上方に5m位の斜滝が見える。前回2013年に来たときは、一人ひとりザイルで確保して登ったのですが、今回は水量が多く登れません。左側

の草付きの崖をのぼり、上方を見ると大滝(落差8m位)が見えました。

終了点に10時到着。此処で小休止、本石さん用意のそうめんをご馳走になりました。此処からは右側のガレ場を登って、林道経由で駐車した所まで戻りますが、今回はがけ崩れで通れず沢を下降しました。10時40分出発、万江川合流点12時10分到着。此処で昼食後、万江川を渡り直して駐車場所へ帰り解散しました。

私の感想、やっぱり小さい沢とはいえず、上つて下るのはきつかったですね。帰りの万江川の中ほどで、よろけて座り込み腰まで流れに浸かってしまいました。

【徳澄正昭】



講演の後、皆で踊りを披露する（JA菊池「めぐみの里」）

だ生きていたんだろう。返納した今、これでもう危ない目に遭わんで良かったと思うと安心感で心が楽になった。ボランティア活動も半分あきらめていたので、車に乗らない理由を話し、お断りすると「大丈夫ですよ。ご自宅ま

で送り迎えをしますから」と言ってくれ、出来ないどころか、これまでより遠くの所まで行ける様になった。11月6日には熊本県の教育委員会の依頼で、熊本市内の鶴屋の隣にあるボランティアで生涯学習講座のボランティアの講師として講演をさせて頂いた。この時は主人が送ってくれた。その10日後には、JA菊池の福祉センター「めぐみの里」で講演をさせて頂き、ここは自宅まで迎えに来て送り届けてくださった。私の地元のあさぎり町ではデマンド交通（福祉タクシー）を利用して頂き、

【うえずぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】いろいろな人に支えられ助けられながら、全ての人に感謝しながら「終わり良ければ全て良し」として一生を終りたいと願っている。

かった命は全うせんばいかん。お母さんが決めたんならそうしない」と言ってくれた。その言葉に迷うこともなく6月の69歳の誕生日に免

許証を返納した。初めは恥ずかしかった。悔しかった。まだまだ乗れる年なのにと思ったが、母を乗せていて事故を起こさなくて良かった。お母さんだっ

て送り迎えをしますから」と言ってくれ、出来ないどころか、これまでより遠くの所まで行ける様になった。11月6日には熊本県の教育委員会の依頼で、熊本市内の鶴屋の隣にあるボランティアで生涯学習講座のボランティアの講師として講演をさせて頂いた。この時は主人が送ってくれた。その10日後には、JA菊池の福祉センター「めぐみの里」で講演をさせて頂き、ここは自宅まで迎えに来て送り届けてくださった。私の地元のあさぎり町ではデマンド交通（福祉タクシー）を利用して頂き、

自宅からいろんな場所へ移動出来るようになった。本当にありがたい。これからは、老いていく身を安心して暮らしていく事が出来る。高齢者でも上手に運転する人もいるが、私は自分の運転に不安を感じ、自信をなくしたから返納したので。



上杉芳野の「あがつ段」④

私が選んだ「安全な道」

私は22歳で車の運転免許を取得し、ペーパードライバー時代もあったが、主人の実家に帰ってから車を運転する様になった。子育て・家事・仕事、まだ若かった私はジャンジャン車で走り回った。そんな私も仕事を辞め、主人の父母の介護をする事となった。父は90歳で2年前に他界し、残された母は88歳で認知症となった。深夜も目が離せない様になり、何度となく起こされて、いつの間にか不眠を感じていた。

何回となく危ない目に遭った。何とか命が助かった事もあり、これまで人様に迷惑をかけた事もあった。テレビで次々と起こる交通事故のニュースを見て、「私もいつかはそんな事になるかも知れん。人様を死なせたり障害者にでもしたら、今までのボランティアが何にもならん。保険で車の補償は出来ても、その人の家族があり、その人の人生がある。保険では償えない事がある。そうならないうちに今、もう車に乗るのを辞めよう」と



講演の後、受講生の方と踊る。そして最後は全員で踊った（くまもと県民カレッジ）

決心した。主人も娘も分かってくれて、娘も「お母さんが今まで、培って来た人脈があつど。どっか行きたいと言えは連れて行ってくれるし、みんなが助けてくれやる。私もお父さんもいる。助

二俣橋

美里町小筵



二俣渡側からみた場合



二俣福良渡側からみた場合



右は二俣渡、左は二俣福良渡

緑川水系の釈迦院川と津留川の合流するところにL字型に並ぶ二つの橋がある。釈迦院川の石橋を「二俣

渡」といい、津留川の石橋を「二俣福良渡」という。中山手永惣庄屋が計画し種山石工の嘉八（藤原林七の長男）がつくった。前者は橋長28^尺、橋幅2・5^尺、高さ8^尺で、文政12（1829）年に完成。後者は橋長27^尺、橋幅3^尺、高さ8^尺で、文政13（1830）年に完成。形状、大

きき、石の組み方がほぼ同じで、こういう例は全国的にみて稀である。

10月初旬から2月末まで日光が橋のアーチに差し込み、水面にハート型の形をつくることで人気がある。午前11時30分から正午までの約30分間しかハートの形はできない。そのため日曜祭日の同時刻には多くの観光

客で賑わう。銀杏が色づく11月20日前後がもっとも人気があるが、10月初頭とくらべてハートの形がいくぶん崩れること、観光客が多く写真撮影に苦労することに注意したい。冬至近くになるとハートの形はいつそう崩れるので、ハートの形状を観察したい人は冬至前後の訪問は避けたい。

熊本地震で両橋は大きく損壊した。橋付近の震度は4月14日の前震、4月16日の本震時の震度はともに6弱であった。昨年、元の姿に復旧された。損壊時の状況、復旧作業の様子が橋近くの駐車場で見ることができ、説明してあるのでぜひ見ていただきたい。



二俣福良渡の通路。欄干が低い



二俣福良渡の橋下の水面にハートの形ができる（10月初旬）



同上（11月20日頃）

漢和字典は面白い

28

鶴上寛治

富

「富」と「富」 どちらが豊かに見える？ 愛媛県に富士山という山がある。「フジサン？」と勘違いしそうだが、実は読み方はトミスヤマ。漢和字典には「富は富の俗字」と書かれている。江戸にはいくつもの富士見坂という地名が見られる。富士の见えない場所にも。これは《不死身坂》で、一種のおまじない。

当時の武士たちも死にたくはなかったらしい。

鎖

音はサ、鎖国でおなじみ。字形からいうと《こまかい金具》のこと。それからこの字の持つ意味は拡大して①くさり②ジョウ（錠）③とじる（封鎖・閉鎖）④つなぐ（連鎖）などになった。よく見ると《切れているようでもあり、繋がっているようでもある》いやあ、こういうものを作り出した人間、素晴らしい。繋がってはいないのに、簡単には切れない。それでいて自由に曲折できる。すごい！

釣

音はチヨウ。「勺」は《物をすくいあげるひしゃく》のこと。したがってこの字は《魚をつりあげる金属製のつり針》。「勺」は液体の量の単位で、「合」の十分の一しかない《わずかな量。情状酌量と言っても《ほんのわずかな》にすぎない。魚を釣りに行っても釣果（チヨウカ）は少ないのが当たり前。字がそうになっている。

俎

音はソ。意味は《まないた》である。なんだか、人間が二人並べられて今から料理される図柄に見えるのは私だけか？ 左側の二つの「人」は《人ではなくて肉片》だそう。一安心。「俎上肉」とは《生殺与奪の権を握られている》の意だとあるから、やはり載せられているのは？

【つるかみ・かんじ／人吉市】



同橋と銀杏

もちろん二俣橋は鑑賞用の美術品ではない。他の石橋と同じく社会生活の向上（交通の利便性の向上）のために費用・労力を尽くした先人の尽力の産物である。別の機会に、このことについてはまとめて触れよう。

（春秋）

八角トンネル

二俣橋の近くにある旧熊延鉄道の遺構。正確にはトンネルではなく洞門だが、「八角トンネル」の愛称で呼ばれている。旧熊延鉄道は木材輸送を目的にした鉄道で昭和39年に廃線。前回東京オリソップの頃まで



同地が林業で栄えていたことを遺構で確認できる。



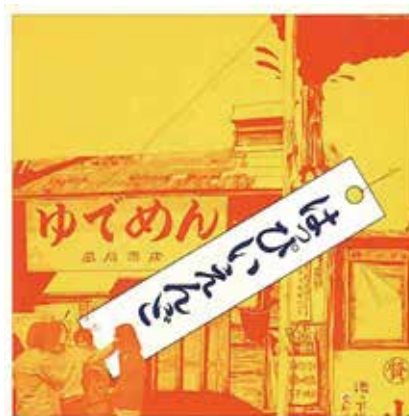
トンネル付近。鉄道が走っていたときの様子を推測できる



1970年春よ来いはっぴいえんど

長船早打之

はっぴいえんどってバンドは日本の「ロック」ではエポックメイキングなバンドで細野晴臣、大瀧詠一、松本隆、鈴木茂と後の日本の音楽を支えるそうそうたるメンバーによる



バンドで…とか書いても仕方ないの
で、個人的な事を書く、実はこの「春よ来い」って曲は高校の時分には知らない曲で、某FM曲でやっていたデモテープ特集でカバーしたバージョンってのが初めて聴いたバージョン。デモテープを作った人が「やっぱり春よ来いはい曲だと思う」と書いたのを坂本龍一が「何を言ってるんだ」的な返して応じたのを聞き流していたんだけど、当時の心境を考えると坂本龍一的にはちゃんちゃらおかしかったのか、そうでもなかったのか。

とにかく、そういう事で最初にはっぴいえんどのアルバムを買ったのが何故か最後の最後に出たライブ盤で、しかもあれは解散後、このライブのためだけに再結成した録音で、しかも半分は別名義のライブだったわけです。

「春よ来い」は当然入っていたんだけど全然ピンと来なくて、それはもう仕方ない事なのかもしれない。80年代の高校・大学生にとってこの音楽は古すぎて新しすぎた。坂本龍一から入ってるので細野晴臣、大瀧詠一（初期の）にたどり着くにはまだ時間が必要だったわけである。

歌詞だけ読むと「フォークソングかな？」という歌詞で、とてもこの組み合わせが後に松田聖子の「風立ちぬ」であるとか、薬師丸ひろ子

の「探偵物語」を作り出したとは想像出来ない。なんせ「炬燵を囲んで」だ。

歌詞の区切り方も独特で「歌留多をしていたものです」で「ものです」と「も」を伸ばす。いや、「も〜のです」とかさとか、言いたくなるけど、大瀧詠一はこ

ういう珍しい場所を強調したがる。

後の曲、「雨のウェンズデイ（1981）」では「海が見たいたわって言いだしたのは」という歌詞で「見たいわっていいだしたのは」と「い」を伸ばす。聴いてみるとわかるけど、え、そこ伸ばしますか？なんで？って気分にはさせられる。

DJやつてるとはっぴいえんどはびつくりするくらい上手いバンドで、大音量で鳴らしても破綻しない、きつちりとした音を流してくれる。すごいバンドなのです。

いつか、全部レコードで欲しいな、でもお高いんでしょうという事で。

【おさふね・さだゆき／人吉市】

春よ来い

作詞・松本 隆
作曲・大瀧詠一

お正月と云えば
炬燵を囲んで
お雑煮を食べながら
歌留多をしていたものです

今年は一人ぼっちで
年を迎えたくです
除夜の鐘が寂しすぎ
耳を押えてました

家さえ飛び出なければ
今頃皆揃って
お芽出度うが云えたのに
何処で間違えたのか

だけど全てを賭けた
今は唯やってみよう
春が訪れるまで
今は遠くないはず

春よ来い
春よ来い
春よ来い

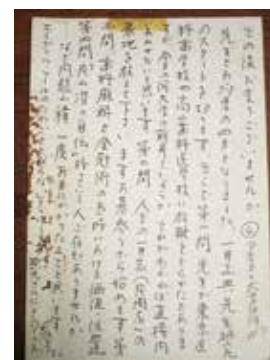
一井正典研究などにみられる研究方法の特徴

一井正典研究と渋谷敦先生との出会い

松本歯科医院 松本晋一

渋谷敦先生（以下渋谷氏）と私の出会いは、確か平成2年の秋からである。その当時、渋谷氏から電話があり、自分も一井正典の研究をしたいので、色々情報欲しい旨の連絡であった。平成3年4月1日には一井正

典研究を開始するとの明確な意思表示の葉書が到着（写真）。その後、渋谷氏へ一井資料（文献・手紙・写真資料他）をお渡しして、そこから共同での一井正典研究が始まった。



「研究のスタートを切ります」の渋谷氏葉書（平成3年4月1日付）

それ以前の研究では、昭和60年春に加藤達雄君經由他で郷土史家の種元勝弘氏宛に一井資料を持参。それらが昭和62年の人吉新聞正月号に「人吉球磨が生んだわが国歯科医の開拓者一井正典の生涯」と題され紹介、平成2年3月には「人吉市史」第2巻にも

一井正典が写真入りで収録された。渋谷氏との共同研究は「一井正典とドクトル・ヴァンデンボルグ」と題し、先ず平成4（1992）年6月第20回日本歯科医史学会で初めて講演発表。それを平成5年2月の日本歯科医史学会誌（19巻2号）に論文投稿。3月には渋谷氏は岡本勝年氏とカリフォルニアの一井正典の第二の故郷、ロスガトスを訪問取材。翌年5月には松本がフィラデルフィアとポートランドを訪問取材する。それらを第22回日本歯科医史学会で「西洋歯科

医学の草分け・一井正典の足跡を訪ねて」と題して発表。同年10月27日の第7回熊本県民文化祭（中津留美術館）では、渋谷氏の講演と一井の業績及び写真資料を地元で初めて発表（併せてクラシックカー展示会を開催）。そして翌年5月にはくるめて氏の

画入りで、ジュウグリット先生・一井正典先生伝「青雲遙かなり」と題し、人吉新聞の連載（H7年5月1日（9月23日）が始まる。さらに同年11月第18回日本歯科医学会総会（帝国ホテル）では「日本歯科医学会の先達3人を育てた男」と題し、二人が取

材したバンデンバーク先生を中心にポスター発表を行う。平成9年、地元人吉市歯科医師会では会創立50周年記念として、一井正典顕彰記念碑（永国寺）と生誕碑（カトリック人吉教会）を建立、併せて渋谷氏による記念講演会が開催された。



第7回県民文化祭での一井展示会（H6.10.24 中津留美術館）



人吉市歯科医師会一井顕彰碑建立（H9.11.8 永国寺）挨拶は一井孫の一井正康氏



一井講演会。人吉市歯科医師会創立50周年（H9.12.13 鮎里ホテル）

これらは平成8年11月、成書「井正典伝・青雲遙かなり」として実を結び、それにより多くの人々が影響を受けた。なかでもアメリカ・ロ



県近代文化功労者表彰式後に
(左から一井貴美子氏、福永市長、一井呉夫氏、渋谷氏、小林教育長
H13.11.2 市長室)

スガトス在住の井手祐二氏は、渋谷氏の長男、浩二氏の同級生でもあり、一井正典のことをしっかりと認識されており、その後の一井事業の発展にも貢献して頂いた。

以来、これまで4年毎開催の日本歯科医学会総会には第19回から第22回(大阪市)まで5回に渡り発表。また日本歯科医史学会には平成22年までほぼ毎年、一井正典の業績を渋谷氏と共同発表をしてきた。それらが平成13年度の熊本県近代文化功労者表彰にもつながり、近年では平成24年6月の人吉市及び米国での一井生涯150周年記念行事にもつながることになる。

二人の共同研究は20年間続いたが、同23年10月7日、86歳で逝去された。惜しむらくは渋谷氏と、再度カリフォルニアそしてフィラデルフィアの一井所縁の地に同行出来ていればと思つた次第である。

○渋谷氏の人物研究方法の特徴としては、

- 1、短時間での関連資料の収集とまとめ、その基本は年表作りにあること
- 2、資料の豊富さとそのまとめ方の速さ、秀逸さ
(例…依頼した一井の手紙から航海記「嗚呼 光陰ハ矢ノ如シ」の読み解きは、僅か3週間で完成)
- 3、仕事を形にすることの大切さ
新聞や雑誌、講演にして、最後

には本にする

4、多くの人物誌の著作は、それらはすべて郷土の先人・偉人を基本としていること

5、やると決めたら予定通り最後までやる、キチンとやること

渋谷氏の研究は、まず人吉新聞に連載小説を書いて頂いたことで、一井正典の人物像が郡市民に行き渡りさらに評判を呼んだ。そして「青雲遙かなり」が刊行されたことで、一

井が県民レベル、業界レベルまで知られるようになり、それらの業績を元に平成26年から人吉市が「一井正典「青雲の志」育成事業」として取り上げ、これまでに3回に渡り高校生らの訪米事業がなされ、来年3月には第4回目の事業が予定されている。

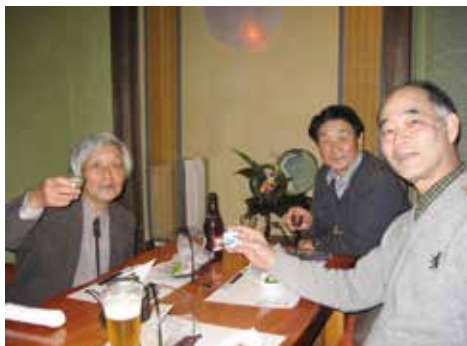
結局、これらの渋谷氏の実績とそ

の成果を目の当たりにし、先生との出会いから、さらに一井研究に拍車が付き、益々、のめり込んでいったのである。私も、氏に負けてはならじと、より一層の励みとなり、遅まきながら一井の本「維新の若きサムライ、一井正典とその時代」(平成24年6月)の上梓にも繋がり、より以上に一井資料や情報収集に励まざるを得なくなった経緯がある。

もう出会いから来年で30年が経と



「人吉の偉人に学ぶ会」新パンフR1.11



渋谷氏、森山鉄男氏との新年会(H20.1.16 御伽草子)

うとしている。渋谷敦先生の郷土愛に燃えた先人発掘のご尽力には感謝の念が堪えない。私も負けずに念を入れたいのだが、残りの時間の有限なことも身を持って教えて頂いた。渋谷敦先生の研究は、「人吉の偉人に学ぶ会」での人吉球磨の偉人探訪にも拡がつてゆく。

【まつもと・しんいち/人吉市九日町】

「県民手帳」を考える

数年前からはじまった県民手帳ブームは衰えをみせない。11月に2020年度版の発売がはじまり、全国各地の手帳を入手しつつあるが、各県の「県民手帳競争」は激しくなってきた印象を受ける。

熊本県手帳は、これまで単一の表紙にとどまっていたが、来年版は三種類にしたほか、文字のポイントを大きくしサイズも大型化させた。高齢化社会に合わせた対応であろう。

「熊本県内のおすすめ観光地」や「熊本県産の食べ頃カレンダー」の新設など内容の充実も図っている。そのため「リニューアル版」として宣伝

販売されている。これまでの県民手帳と比較してみると相違は一目瞭然で「リニューアル」は大げさではない。他方、450円から600円に販売価格が大幅にアップされている点も無視できない。安価であることも県民手帳の魅力のひとつとされていたが、それが失われたことになる。それでも、いまのところ売れ行きは好調のようである。

熊本県の県民手帳は「くまモン」を前面に出し、数年前から全国的に人気のある手帳であった。個人用手帳としてだけでなく、プレゼント用としても利用されていたよう

ある。ご当地キャラクターを活用する戦略は多数の県民手帳も採用しているが、「くまモン」ほどに売り上げに貢献していない。来年版は、これまで以上に「くまモン」を強調し（3種類の表紙上のくまモンはすべて違うなど）、それが売り上げを支えている可能性もある、3種類の手帳をすべて購入する人も出てくるかもしれない。

150円の値上げは弱点だが他県の手帳は早くから600円に価格設定している事情を考えると、600円は許容範囲ということか。佐賀県の場合、熊本の手帳に比べて必ずしも特徴的な内容でないが、すでに価格は700円の大台にのっている。内容を充実させると低価格を維持できなくなる理由は充分に理解で



きるにしても、そのことと売れ行きは別の問題である。両県の県民手帳の最終的な売り上げに注目したい。ついながら、佐賀県の県民手帳の特徴のひとつだったミニ版（普通版の半分の大きさ）は休止になった。ミニ版を利用するとすれば若者に限定されて、いずれ消滅するだろうと

踏んでいたが、予想は的中したことになる。全体として、小型の時代は終了し大型化の時代に入っている。

発行元は各県の統計協会。したがって、県民手帳は統計を重視する手帳である。その特質を変更する必要はなく、むしろいっそう重視すべきだろう。

たとえば全国一位部門の紹介だけでなくワースト部分の紹介があつていい。地域の弱点を知っておくと改善すべき点がかかる。県庁の

組織名や県議会議員名、県選出の国會議員名、東京の地下鉄路線名なども掲載しているが、利用度が多いとはいえない項目で近い将来、それらは消滅に向かうと予想する。いまだき、東京や大阪の地下鉄の地図を必要とする県民や県職員はいない。

熊本県の場合、県民手帳はほとんどの書店で販売されている。コンビニでも購入できる。だが、すべての県がそうであるわけではない。県によつては大きな書店でも県民手帳を取り扱っていないこと、コンビニも同じく取り扱っていない県があることに注意したい。熊本県は手帳の販売網が充実しているといえそうであるが、別の機会に触れる。

（春秋）

『なば山騷動異聞』

を読む①

上村雄一

時は幕末に近い天保の頃。一見平和にみえた球磨地方に家老を切腹に追い込む大事件が発生した。ほとんどの農民が加わる一揆の勃発である。農民はなぜ一揆を起こしたのか。そのとき藩主はどうしたのか。一揆で農民は誰も処罰されていない。だれが計画したのかも不明のままである。そもそも、そのような取り調べもおこなわれていない。その後、別の家老も切腹するに至るが、なぜ、その家老が腹を切ったのか。家老の息子も自刀して果てた。なぜ、自刀したのか。さかのぼっていえば、家老の息子は自刀でなく病死に偽装されていたのであった。



『なば山騷動異聞』(2011年 人吉中央出版社)

推理小説のように謎に満ちているが、そういう事件が間違いないこと。故渋谷敦氏はその謎をどのような

に解いたか。その解答は正しいか。知の巨人・渋谷敦が力を尽くして本書を書いた。人吉球磨のみならず、球磨川流域の多くの人に、ぜひ、この本を読んでいただきたい。球磨地方を揺るがす大事件(一揆)があったことを知るだけでも十分である、いま住んでいる土地の人々はかつてどのよう生きていたか。一揆は教科書の説明しているようなものであったかなど、本書から読み取れるものは限りなく多い。こういう作品はくりかえし読まれるべきである。

藩主頼之

天保七年(1836)三月五日、肥後人吉藩・33代藩主相良頼之は参勤交代の途に出た。渋谷は次のように記す。

「三十八歳。男盛りの年齢なのに、生来の病弱のために今日から二月にわたる江戸までの参勤の道のりがとに角億劫でならない。これから小舟に乗って、半日かけて八代まで下る

球磨川下りも、八代から数日かけて小倉まで歩く駕籠の思うだに吐き気を催す。顔には出さないが、まさに苦難の旅路である。」

頼之が生来病弱であったことがその理由であったかは確認しようがないが、頼之にとつて気の重い旅ではあったろう。先の参府の折(天保五年)に、東北地方を中心にすでに「天保の飢饉」が発生し、国全体の世情が安定せず夜間の通行が危険な状態になっていた。そのため人吉藩は参勤交代の予定期間を長めにした。今回の参府時も飢饉の影響は失われていない。それどころかいつそう強まっていて、頼之と供の者たちは緊迫した状況で江戸に向かったのであった。

頼之は將軍家への拜謁など幕府体制下での礼儀作法を知



相良頼之

らぬほどに愚かな人物ではなかった。文政元年(1818)に父頼徳が隠居し家督を継いでから18年経ち、家臣からも慕われるようになっていた。病に倒れた時、家臣たちは彼のために力のかぎりを尽くしてもいる。渋谷敦も、嫡子長福に佐藤一斎の講義を受

講させて後継者育成に努めている頼之の様子や、家臣一同とともに一斎の講義に耳を傾ける頼之の姿を描き彼に否定的な評価を必ずしも与えていない。一斎は礼記の有名な一節「悪政は虎より猛なり」を講義し、父母を敬愛せよとの孔子の説諭を長福に教示し、頼之は一斎に礼を述べ用人や近習とともに一斎にも馳走をふるまわせるなど藩主として礼にかなった態度をとつたと渋谷は書いている。

国許の家老田代忠左衛門正典が借財難に苦労している旨がその場の話題になって、一斎が「さもあろう、いずれも今は大変」と語ったが、そのときも頼之は藩主としての「おおらかさ」を失っていない。「常盤橋御門番」の役を幕府より命ぜられたときも頼之は藩主らしい態度をみせている。病弱であったとしても決して彼は暗愚でなかった。しかしながら、本書での頼之の役どころはこれで終了し、彼の名は物語に登場しなくなる。飢饉悪化により、幕府の直轄地である甲斐国においてすら大規模な百姓一揆「天保騷動」(天保七年六月)が発生したこと、米不足のため数年で米価が3倍に値上がりしていること、江戸府内でも餓死者がでるまでにいたっていること、南北の両奉行所が「御救所」を開設し「御救米」の配布をはじめていることなどを頼之が知らなかったはずはあるまい。参勤交代は徳川幕府に対する忠誠行動であると同時に全国各地の状況についての情報交換の場であり、頼

之もそれを活かしていたであろう。人吉への帰国の途上、「大塩平八郎の乱」の状況を大坂で見聞したはずだ。それにもかかわらず、渋谷は彼に重要な役どころを与えなかった。

側近政治・実務者政治、そして農民

表面をなぞるとき、大飢饉という大状況が発生しているにもかかわらず、そうした状況とは無関係に頼之は生活していたかのようにも本書は書いている。「大儀であつた、よきに計らえ」といえば万事が済む環境に、彼は藩主として生きていたと渋谷はとらえているようにみえる。藩主がなにごとかを決めそれを命じる時代は終わり、家臣の側用人（側近）が藩主の代行者として振る舞う時代に移行していたと把握しているようでもある。「側用人」といえば、柳沢吉保を思い出すが、彼の主人・徳川綱吉は決して「飾り物」ではなかった。綱吉は將軍としての権力を持ち行使していた。

それでは本人でなく側用人（側近）が力をもつことはこれまで実際に存在したであろうか。仮に、存在したとすれば、そのときの領主はどういう気持ちで生きていたのか。たぶん、つまらない人生を過ごしていると思つていただろうと推測するが、実際には、どうだったかは知る由もない。そのように振る舞うことが領主の姿であると規範化されていれば、藩主といえども、その規範にしたがって行動せざるをえない。そ

亀裂が生じ、行政（統治）能力に長けた者の台頭を社会は求めるにいたる。それでも過去の階層秩序が一举に完全に瓦解することはなく、伝統的権威として存続し、場合によって、文人・家臣と対立することにもなる。肥後細川藩の実学党と学校党の対立はそのような文脈のもとで理解されるべきであろう。

農民の対向者

農民は支配構造一般に対抗するのではない。具体的人物に対抗する。支配層のすべてに反発せず、具体的人物を念頭において反発する。反発を受けた者のどういう行動が農民の反感の原因になったかを辿っていけば、ある程度の結論にいたるだろう。しかし、ことはそれほど単純ではない。圧制に対する個別的な反発が集団的抗議行動にいたることは、封建体制のもとでの支配層と非支配者層の「恭順関係」はどういう場合に破綻にいたるかを考えることにほかならず、その課題は重たい。

どの事件もそうだが、一揆発生までには長い因果の流れがある。人吉藩内の因果だけで回答ができればよい。しかし、球磨の事情は江戸の事情と関係し、あるいは、隣国の薩摩の動きとも関係しているかもしれない。因果の流れがひとつだけで、それが大きければ事情は分かりやすいのだが、そういう

れ故、当時にあつては、頼之は人吉藩の「飾り物」としての役割をはたすことで満足しなければならなかったのかもしれない。そうだとしたら、頼之が表舞台に登場しないのも自然の流れである。この点において、將軍徳川家斉、薩摩藩主島津重豪、人吉藩主相良頼徳（頼之の影がすべて薄いのは、その個性によるのではなく、むしろ、時代の思潮に由来することに我々は気づく。三人は父たちと同じように生きる時代の下にいなかったであろう）。

権力の二重構造

領主親政の時代、側近政治の時代、藩校出身者を中心にする文人・家臣の時代に仮に時期を区分できるとする。領地統治の実権を一体だれが握つていたのかの問題である。その実力者は頼之の名を借りてなにごともしないだろうか。藩主とは別に実力者がいるという権力の二重構造の存在には、どうしても矛盾が内在する。たとえば、二重構造のもとでは、伝統的権威と現在の権力の衝突を意識する者を少数であれ必ず生み出し、伝統的権威の復権を志向することにもなる。封建体制のもとで、領主親政に限界があることが次第に明確になるとともに、戦国の世の武勲に由来する旧い支配構造に

例はほとんどないのであつて、そこに一揆分析の難しさがある。

渋谷敦は、この点、江戸の社会の分析から出発している。

人吉藩内の内部事情の分析に終始するのでは一揆発生を事件をトータルに解明できないと考えたのであろう。列島社会全体の動きのなかで事件を考えないかぎり一揆を十分に把握できないと考えたにちがいない。現在の目からすれば、渋谷の方法は簡単そうにみえるが、そうではない。そもそも、そうした発想はなかなか出てこない。まずは人吉藩内の事情分析からはじめるのが普通のやり方である。それに対して、渋谷の方法は現在の世界システム論に近く、その着眼点に渋谷の力量をみる。天保時代が時代の転換点であつたこと、球磨の大事件は列島全体の激動期のひとつにすぎないことを彼は把握していたのだ。大雑把に言えば、農本主義から重商主義の転換期の狭間のなかで球磨地方の一揆は発生したと要約できるが、詳細はあとで触れよう。

頼之の不幸

ところで頼之の江戸参府はのときが最後になった。彼は、天保九年（1838）には参勤交代の務めを果たせなかった。尾方保之「概説 相良藩」（人吉中央出版社 2008年11月15日）203頁がその事情を的確に要約している。

天保九年二月二十三日、藩主頼之は参勤交代のため人吉

を出発したが、八代御飯屋にて発症し、三月九日、やむなく人吉に帰城した。すぐに長崎奉行所の医師坂部文庵を雇い入れ、診察（黄痘の症状）し治療を行った。

しかし、病状は回復せず、江戸へ参勤できないため、当地隠居願いを幕府に認めてもらうことにした。そのため、秋の十一月、幕府の御番医岡仁庵をわざわざ江戸から呼んで診察を受け、隠居許可の診断書を書いてもらったのである。

そして翌年の五月、頼之の御隠居願いの「御誓詞御判」の見届けのため、幕府の御目付、大沢主馬が人吉に下向した。家老を中心に藩をあげてその接待に当たり、無事、幕府からの「奉書」を受け取り、頼之の「誓詞・血判」を終了することができた。田代をはじめ、家老たちは大変苦労した。

頼之の隠居により、長福が七月十七日に家督を相続し、34代人吉藩主となった。

この頼之の隠居、長福の家督相続という大行事に一万四千両という多額の経費を費やしたのである。

八代・松井家の文書に、大沢主馬が八代に宿泊したときの記録が残っている。主馬の本陣の準備、主馬用の料理などが記されているが、彼に寝酒の習慣があるかも確認している

ことに幕府大目付に対する応対とはこういうものかと知る。それにしても頼之の隠居と長福の家督相続は、財政再建が課題になっている折の多額の出費になった。田代たち家老はこれほどの出費になるとは当初は予想していなかったかもしれない。頼之の病氣治療、長福への家督相続のための活動で精一杯で、出費の計算どころではなかったろう。逆にいえば、彼らは決して頼之をないがしろにしていたわけではなく、その病状回復のため最大限の努力を尽くしていたのであった。彼らにとつて頼之は大切な存在であった。そのことは確認してしかるべきである。そして、皮肉にも、そうした田代たちの行動がつきつめていけば一揆発生の一因になったのであった。主馬は人吉には一泊しただけで直ちに江戸にもどった。往路復路ともに佐敷経由であった。一人旅ではなく供の者たちをひきつれての移動で、相良の家臣たちが主馬の警備にあたった。飢饉発生時の球磨下向である。主馬にとつても気の進まぬ役目であつたろう。頼之はその後病状を回復させることなく嘉永三年五月十日（1850年6月19日）に没した。享年53歳であつた。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

せきい 鶴 短歌会

十二月詠草

色づいた枯葉つぎつき風に舞ふ季節を憂へる風も冷たく
秋空のうつろう季節写しとり水は静かに流れつづけむ

守永 和久

薩摩路の秋はいまだに色づかず夏の名残りの山道を往く
曾木の滝しづきを上げて落ち下る川内川の水は豊かに

河内 徹夫

同級会八十余年を皴刻み挙つて語る十五の春を
登り来て見下す山は霧帯びて紅葉は淡く透けて見えたり

中村美喜子

高一で「ロソクの本」勤めらる未だ読まざる赦せ先輩
現役の忘れ去りたる古き図書整理しおれば吾の式辞が

西 武喜

夕焼けが墨色空に変はりゆく星を数へて月を拝みぬ
午後八時定期の便り携帯に「母さん元気」ただそれだけを

釜田 操

車椅子苦勞しながら検査受く診断結果「原因不明」と
長き夜痛みかかえて眠られず早く明けよと東に祈る

三原 光代

返納し足腰鍛えて前向きに歩け歩けを日々の暮らしに
亡夫と犬共に遊びし思い出を心の中に大事にしまい

中原 康子

夕陽浴び周り見下しモズ猛る子等の声なき吾が古里に
ジヨウビタキ今朝もお辞儀し庭先に「おはよう」と声かけ相手する

橋詰 了一

五十年共に過ごしし妻逝きぬ涙も尽きし暑き真夏に
平成と別れる如く妻逝きぬ共に過ごしし歲月語り

堀田 英雄

「戦地（種子島）の便り」に見る家族の絆⑤

尾方保之

父への和保兄の手紙 十二月二日着

父さんバナナはありがとうございました。

バナナは、しんるいのところには、まだやっていません。それで青いのをあらぬかに入れておきました。

また、あすからは麦つくります。ひるまではべんきょうで、ひるからは、かえって麦つくります。

それから、今日は、チャツチャツ（うぐいす）が（罌に）かかっています。

めじろ（目白）四ひきとりました。

からいもを十五俵だしました。

うちでは、みんななかよくくらしています。父さん元気でいてください。

僕も元気です。どうかしっかりやってください。ではさようなら。

父さんへ

尾方保

父への保之の手紙 十二月二日着

ヲトウサンゲンキデスカ。ボクモゲンキデス。ヒロシモゲンキデヨクアソビマス。

ガクコウデハコウチャウセンセイガヒアソビヲシナイヨウニオハナシニナリマシタ。

タイソウヲシタリ、サンス（ウ）ヲシタリシマシタ。ヅグハ（ズガ）ヲハツニアリマス。ドングリヒロイニ行キマシタ。ソノトキカキマシタ。オカアサンノオシエヲヨクマモリマス。サヤウラナ

尾方保之

オトウサンへ

父への姉の手紙 十二月八日

球磨もいよく本格的に寒さがやってまいりました。白髪岳、市房も白雪をいたゞいて神々しくそびえて居ります。御地は如何ですか。講習会もあと二日位です。もう退所式を待つだけになりました。三ヶ月と言っても、本当に早いものです。

昨日は丁度麦作りで、久しぶりに天気でしたので、忠叔父さん叔母さんも午後から手伝ってもらい皆で精出しておられました。

母さんが一番中心になって、何事も一生懸命です。決して心配なき様、お金百円はたしかに受け取りました。ありがとうございます。さようなら。

十二月八日

るり子

父上様

姉は新しく習った婦人総決起の歌「国難に起つ」の歌詞を書き、「上の歌を習いました。皆決死隊です。体当りの覚悟で毎日を暮さねばならないと思っています」と記している。

「婦人総決起の歌」
国難に起つ

一、あの日我が子が最後まで
守り通した日の丸を
今日は決死のこの母が
高くかざして奮い起つ

二、大事ある度せまるたび
国へ捧げた熱い血が
清い歴史を汚すなど
胸に腕に燃え上る

三、今もあなたは弾浴びて
野征き海ゆき幾千里
留守は鉄壁妻も子も
共に戦う決死隊

今日帰ってみましたら、お便りと珍しい送りもの、ほんとうにうれしく思いました。見た事もない飴、ハツタイ粉、こんなにいろいろ気をつけて戴いてすみません。本当にありがとうございます。弟、妹たちのようございました。又、丁度バナナも熟していた所へ、岡原の叔母さんが遊びにいらっしやたので、叔母さんにもやり、国保たちへも食べさせられたそうです。まだ青いのもあるので、それがうれてから榎田にやると言っています。

父の手紙 十二月十五日着

「鉄砲伝来記」の本を荷作りした所に、十二月八日出しの手紙が届いたので、早速拝見して、皆々大元気で、忠方も総動員して麦を作っていられた模様が目前にちらつきました。子供たちもびんく／＼しているとのことで、啓保（入院）も良好の由、此上なく思います。……（略）稲刈、芋掘り、畑打ち、麦作りと沢山の子供片手に一方ならぬ苦勞してくれることを気の毒に思い非常に感謝しています。勝って勝って勝ちぬくまでは石にかちりついても頑張りください。

達（ニューギニア戦線）の事が、其の後如何なるものか気にかかります。

星原さん（妹婿）同様、私も二度手紙を出したが、返事が参りません。心配です。

和保、国保、保之の手紙有難う、どれも立派に書けました。保子のがなかったのは淋しさを感じました。

皆しっかり勉強しなさいよ。勉強することが戦いに勝つ事になります。

……（以下略）

私が皆越から帰って来ると必ず「ミカンコーテクタナ」と言います。

今年は干柿を沢山送りたいと思っていっぱい干しておきましたところ、丁度乾く頃雨に見舞われてつた／＼になりましたので思うようになりませんが、少しは送るつもりです。

葉書のこときつと困っていらつしやるだろうと思っていますが、何しろ紙の節約でどこでも一人一枚しか売られませんので思う様に手に入らず困ります。フウトウは入用だったら送ります。私が手製の沢山ありますから、当地から出す手紙はなかなか着かぬ様に思いますが、お父さんのは十日くらいで来ます。

また後でお知らせいたします。…（略）

十二月二十日夜 さようなら

尾方るり子

お父様

（おわり）

【おがた・やすゆき／球磨郡錦町】

十二月十五日 父より

父へ姉の手紙 十二月二十日

十二月十一日出しのハガキ十二月十九日に着きました。御元気で御奮闘の由何よりだと存じます。家の方も皆大元気で、一生懸命働いていますから御安心ください。

麦作りもすっかりすみました。田圃は下の犬童市男さんが馬で耕して戴きましたので、家の者、母、和保、国保それに叔母さんの家の者だけで四、五日かかってやっとすみました。今日大根も引いて運んでしまいました。白菜、大根も去年に益して良い出来でした。作物もみんな去年より良い収穫をおさめました。上村も大方麦作りがすんでしまいました。

もう十日もしたらお正月ですね。月日のたつのが夢の様に早く思われます。

今夜もお母さん、和保、国保、保子、保之、紘、私みんなこたつをとり囲んでいます。急に口がかなう様になった紘がこましくれた事ばかり言って笑わせます。

…（略）

肥後と球磨
その原史世界に
魅せられし人々

— 肥後と球磨の考古学史 —



木崎康弘

※九州内の紀伊国屋書店を中心に熊本市内の主要書店
人吉球磨の書店、Amazonで取扱中

■A5判／約600頁／上製本
■定価 3,000円（+税）送料 200円

■発行元
人吉中央出版社

明治から昭和初期、肥後と球磨で
練り広げられた考古学者たちの
動静を記録した白熱のドキュメント
考古学はドラマだ。

山崎正董著「球磨探古記」から

溝下昌美

一

ここに紹介する資料は、『山崎博士の演説と文章』（昭和十六年発行）所収の「球磨探古記」の二部である。筆者はいつのことか、熊本市内の図書館で複写しておいたものである。同書によると昭和九年の九州日日新聞に山崎氏が連載されたもので、当時の文化遺産の

状況が、含蓄ある文体で表現されており、末尾には当地への提言も頂いている。その提言は難解な文で書かれているが、現在でも当てはまりそうである。

山崎正董氏（東林寺にて）
『山崎博士の演説と文章』から

山崎正董氏については、本稿で紹介する知識を筆者は持ち合わせ

せていない。熊本医科大学校長等を歴任、定年後は、歴史研究に没頭されたそうである。昭和二十五年逝去されている。

なお、引用文中、傍線、説明を一部挿入した。文中の、川野翁は宿泊先の人吉翠嵐楼、川野廉氏である。

二

あくれば二十四日。今日の行程は、往きに青蓮堂（青蓮寺）・生善院（しょうぜんいん）を見て八里餘もある幸野村まで行き、歸りに城泉寺址を訪ひなどして午後二時前歸宿し、それから船で川を下り、五時過ぎ白石驛を發して歸熊で、なかなかゆつくり寝ては居られぬ。午前六時半皆起出で、急いで入浴、食事もそこそこに終へて七時過ぎ自動車で出發、同行は・松田・甲斐・川野三翁と津留君、天氣は幸いに快晴だが、朝早いせいか吹入る



風は寒さを感じる。人吉町の東端を出外れてから球磨川の北方を東へと駛る。道は球磨川の南方を通る多良木街道と殆ど平行して、思ったより平坦だ、左右には黄ばみそめた稲田が多く、道に沿った岡や畦道に、穂に出た尾花や可憐な秋草にまじつて眞紅の彼岸花が時知り顔に咲いてゐるのも美しい。

なほも東へと快駛して二里餘も來たと思う頃、球磨川の清流をすぐ右手に見たが、それからは或は別れ或は近づきつゝ、溯る、九時半頃黒肥地村字茂原の

青蓮堂

の前に駐車。一本の巨杉と數株の老樹とのある可なり廣い境内に孤在せる本堂は、永仁三年に相良頼景の菩提のために上相良第三代頼宗によりて建立せられた墓叢の最も古い方形建物で、特別保護建造物に指定せられたもの。堂内に安置せる佛像は國寶に編入されていづれも貴重なものであるのに、周圍にはろくろく垣もなく番人もゐない。寺院を焼いたり寺寶を盗む悪徒の多いこの頃世の中にさりとて心ない限りだ。

堂の背後には樹木の茂った低い岡があつて、其處に承元元年四月逝去した相良頼景（法名蓮寂）の墓があり、その傍に上相良氏第二代より第八代に至る城主の七基と下相良氏頼仙の一基の墓が並んでゐる。相良氏は藤原鎌足の子孫だが、

平安時代の末、周頼が遠江國相良莊を領してから相良氏を稱し、鎌倉時代の初め、建久四年に相良頼景が球磨郡多良木莊を増賜されたので、相良莊その子長頼に譲りて自分は多良木莊に移住し、湯前・湯山・江代なども併せ領したが、建久九年長頼は改めて球磨郡に封ぜられて人吉城に移った。そこで多良木城は頼景より頼氏・頼宗・頼經・頼仲・頼忠・頼久・頼觀（文安五年歿）と八代の城主を経て滅び、一方人吉城主は長頼より第三十七代頼綱に至つたので、世人は相良氏の兩立する間、前者を上相良氏、後者を下相良氏と呼んで居た。

此等の碑に額づきて後再び本堂前に戻つて、國寶拜觀に堂を開いて貰はうとするに、一向要領を得ずして急に運びさうにもない。今日は先を急ぐので、再遊の折にと格子の間から差覗いたが薄暗くてよく分からぬ。後で聞けば堂を管理してゐるのは近くの青蓮寺であつて、堂内を拜觀したいならば、よろしく先づ此の寺に刺を通じて懇願すべきだつた、今更その手脱りを悔んでも後の祭りだ。堂を辭して更に東方に向つて走ると暫くにしてすぐ右手に百太郎溝の取入口とその傍の巨松（百太郎松）とを見、又それより少し進むと、左方には黒肥地村字大久保の高原地をなせる一帯の地があるが、そ

の原野は古戦場として名高い獺野原―獺原と書いてある文書もあるが、この地方の人は「オソンバル」と呼んでゐる―だ。

相良第十八代義陽十六歳の永祿二年に、その二老臣東長兄及び丸目頼美の間に隙が出来て、双方主君を擁して事を擧げんとしたが、遂に長兄は義陽及びその母を赤池城に迎へ、頼美を叛臣と呼んで其の邸を焼打した。機先を制せられた頼美は姻戚に當る湯前城主東直政の許に走つて、兩軍は諸地で會戦したが、この獺野原に於ける戦にて湯前軍破れて直政は討死し、頼美は日向に走りて三箇月に亘る内亂は終を告げたのである。往時を追懷しつゝ行けば、前方には白雲を戴いた市房山が「人間有興亡 青山無古今」とひとり雄姿を見せて居る。間もなく湯前村（水上村）に入り字岩野の

生善院

の前に着く。石礎を上ると「千光院」（千光山）なる扁額の懸つてゐる門があつて、その左右には石の猫が臺上に据ゑられてゐる。仁王尊は山門に、狐は稻荷の祠にお定まりで、狛犬も亦神社や寺院にあるのが多いが、猫とは初めて一寸變な感じがする、しかしこれには由來がある。寺の境内は可なり廣いが、前方には木らしい木もなく、裏手は竹林。門を這入つて付當りの本堂は改築したものであらうか、藁葺の平凡

み、市房神社に詣でて三七日斷食參籠し、己の指を噛切り、

神狗に血を塗りて盛譽の敵を呪咀し、猶その伴なうた飼ひ猫にも亦血を啜らしめて報復を頼んだ後、自らは茂間崎の淵に身を投じた。果して程なく盛譽を斬つた士も酒に酔つた使者も急病で死し、又相良家にも怪しい事が起つたさうで、慶長二年長毎の代に青井神社の傍に慈悲權現なる社壇を建て、盛譽及び老母の靈を祀り、更に寛永二年頼寛の代にこの普門寺の故地に千手觀音（盛譽の影佛）及び阿彌陀（老母の影佛）の二堂を建て、又同時に一寺を造營して「千光山生善院」と號したが、俗には「猫寺」と呼び、門前の石猫もこのためで、この寺の開山は願成寺第十六世堯辰であるとの事だ。千手觀音堂は即ち前のべた本堂の右前にある堂宇であるが、もとその堂の右側にあつた阿彌陀堂は今はなくなつて、その本尊は觀音堂に合祀されてゐるさうな。

十時寺を辭して道を東々北にとり、なほも招くが如く迎ふるが如くゆく手に聳ゆる市房山を仰ぎつゝ前進し、水上村の郵便局前を過ぐる頃には、兩岸のせまつた球磨川の岩石多き早瀬を右手に近く見つゝ疾走する。山は愈、深く秋の音づれも早い。この邊りは粟も米も大分色づき實りて刈入も遠くはあるまい。やがて幸野溝の取入口の見ゆる幸野部落の川岸に

な建物だが、それに向つて右前の古堂宇は小さいながらほとんど立派だ。その横手に天然記念物と標示されたいかにも見事な巨櫓が根元を二つにして三本並立してゐる。是は正銘の主務省指定で、樹は分からぬが最高樹高は三三米五、根周りは二〇米、各株基部の周りは東のは四米五、西のは四米七、南のは五米三だ。而してその樹の蔭には一は猫の、二は盛譽法師の、三は老母玖月善女の三つの墓があつて、傍の立札にその緣由が記してある、それを讀むと寺の由來も自らわかる。

天正十年に湯山の地頭湯山佐渡守宗昌及びその實弟で同村普門寺の住持盛譽が、相良義陽の戦没に乗じて反亂を起した弟頼貞に味方したと讒訴した者があつたので、義陽の後を襲うた忠房は領内の士に之が誅罰を命じた。宗昌は之を聞いて普門寺に據つたが、その後無根なことが判明したので、忠房は更に誅罰中止の使者を遣はした。然るにその使者は途中免田の茶家の某家で大酒して多良木に一泊したので、その夜普門寺は襲はれた。宗昌は逃れたが、佛道の修行深き盛譽は素知らぬ體で壇上に跪坐し、焚香讀經してゐたので無殘にも殺されてしまつた。翌日使者の驅けつけたときは既に晚

い。

盛譽の母は愛子の罪なくして殺されたのを悲しみ且つ怨

駐車。

この邊の川幅は十分狭くなつて水勢も早い。對岸は杉の密林の鬱蒼とした丘陵で、その中腹にある小祠が畫のやうに見えてゐる。川の中には此方の岸から中流まで「コンクリート」で築上げた横堰があり、その端からは直角に下流の方にのびた堅堰があつてそれが幸野溝取入口まで續いてゐる。

川水の少い時分は堰の上を傳つてその口まで行き得るが、生憎今は水が堰の上を越して流れてゐるのでそれが出來ない。此處まで來ない前にこの事が分かつてゐたら、下流に架せる橋を對岸に渡つて取入口に溯つたらよかつたのにと地團太ふんだ。今から更に引返してさうするには大分時間もかゝるので、又出直して來ることにして、これから湯前村の

城泉寺址

に向ふ。もとの路を辿り猫寺の前を通り、そこから程近き宮田の邊まで引返して左折し、暫くにして球磨川を渡つて南走すると、やがて幸野溝が豊かに流れてゐる處に出る。それを渡れば間もなく湯前村の往還から左に入る小徑がある、下車して二、三町行くと周圍は森や畑で垣らしい垣もない廣場に青蓮堂と同じやうに阿彌陀堂が孤立してゐる。城泉寺は貞應年中の草創にかゝり、願主は淨心、開山は念西、初めの

俳句大学投句欄 ①

立冬（りっとう《りつとう》） 「冬一時候」

【季語の説明】

立冬とは二十四節気の一つ。暦の上ではこの日から冬である。「立」には新しい季節になるという意味で、立春、立夏、立秋と並んで季節の大きな節目である。日中の陽射しも弱まり、朝夕の冷えこみに、冬が近いことを感じる。木枯らし1号や初雪の便りも届き始める。そして、初霜が降り、次第に冬の佇まいへと変わる。

Anikó Papp

● 陽を浴びる東京タワー今朝の冬

【永田満徳評】

「立冬」は冬の到来を迎える緊張感が本意である。掲句は「東京タワー」が厳しい冬を迎えるかのように、立冬の陽を浴びて、すくっと立っている感じがいかにも「立冬」の雰囲気合っている。

猪（いのしし《みのしし》） 「秋一動物」

【季語の説明】

猪は、「猪突猛進」という成句が出来るほど突進力が強い半面、神経質な面も持っている。嗅覚が鋭敏で知能も高い。猪は晩秋になると、農作物を求めて人家近辺にも出没する。警戒心が強いため、夜に出没し、稲穂や、芋・豆、農作物被害も出ている。そこで、山近い田畑には猪垣を作り猪の入るのを防ぐ。

中野千秋

● 猪肉や見知らぬ人と火を囲み

【永田満徳評】

猪の句はその現場に居合わせなければ作れない季語である。掲句は、「見知らぬ人」という措辞に、誰も彼もが仕留めた「猪肉」料理を楽しんでいる和気藹々とした様子がよく描かれている句である。

七五三（しちごさん） 「冬一行事」

【季語の説明】

11月15日。男子は三歳・五歳、女子は三歳・七歳を祝う行事。髪置・袴着・帯解などの祝いが一つになって江戸中期以降、江戸などの大都市で行われたのが始まり。今日では11月中旬に着飾った子供が親に連れられて神社などに参詣する。

古閑寛昭

● 石段のドレミファ遊び七五三

【永田満徳評】

七五三は子供を詠むか、その情景を詠むかの二つが多い。掲句は「石段」が高いところにある神社を示し、「ドレミファ遊び」という、子供ならではの遊びに興じる様を詠んで、類想を越えた句になっている。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

名は浄心寺、鎮守は熊野神社。段々と衰頹して徳川時代の末葉本坊は解かれて人吉の某寺院に移され、鎮守熊野権現は維新以前同村馬場の稻荷神社に合祀され、ひとりこの阿彌陀堂のみが残つてゐる。大正二年本尊が國寶に編入されてからは明導寺飛境内となつてゐる。この堂も青蓮堂のやうに方形の古い藁葺のさゝやかなもので、同じく特別保護建造物に指定されてゐるが、不用心なことは青蓮堂以上だ。

堂の前方の稍高まつた處には古塔群があつて「史蹟城泉寺址古塔」なる標木が立つてゐる。此處には國寶に指定されてゐる九重塔及び七重塔（四重のみ存す）をはじめ五輪塔や板碑などが雜然亂立してゐる。九重塔も七重塔も、その銘によると承久の亂後十年もたゝぬ寛喜二年に建立せられたもの。

この外に同年建造の十三重塔もあつたが、今は八代郡植柳村米知徳氏の所有に歸して矢張り國寶となつてゐる。堂内を拜観すべく今度は私の名刺を管理者に通ぜしめたらすぐに來て開けて呉れた。堂内には中央に須彌壇があつて、國寶となる本尊は阿彌陀如來の坐像、脇侍は向つて右は觀音、左は勢至の立像で、三體共に鎌倉時代初期のもの。脇土觀音の臺座名に「寛喜元年卯月」とあるのを見ると阿彌陀堂もその年に建築せられたものらしい。

三

球磨郡の方々になほ一言して置きたい。（中略）尤も人吉では、此の頃球磨川下りや球磨川鮎や温泉などの宣傳に大分力を入れて居らるゝ。それも土地の繁榮策として大いにやるべきだが、私は同時に球磨の誇りとすべき史蹟や事業についても、最少し顕彰の勞をとられたいものと思ふ。

（中略）この頃人吉では球磨川に大橋を架けたり、公会堂を新築したり、道路を舗装したりする種々の施設に大金を擲たれるとかいう話で、それも至極結構なことであらうが、それと同時に精神的方面にも一肌ぬがれてはどうであらうか。（中略）また、球磨には国宝に編入された貴重な物や特別保護建造物が諸処にあるが、私の視察した青蓮寺や城泉寺址の阿彌陀堂などは寒心すべき状態にある。これ等の保存監督等の如きも大いに寒心すべき状態にある。これ等の保存監督等の如きも大いに心をを用ひらるべきで無からうか。事の前には慎重の考慮を加えられて悔を千載の貽されざるよう切にお勧めして置く。

【みぞした・まさみ／球磨郡湯前町】

倉敷便り

35

絵と文／原田 正史

「大山・隠岐国立公園」へのバス旅行

11月1日、読売旅行社が企画した「ひるぜん 蒜山・だいせん 大山スカイライン紅葉ドライブと鳥取花回廊セルビアまつり」というバスツアーに、娘と共に参加しました。

倉敷市帯高の自宅を午前8時に出発し、待ち合わせ場所である岡山市中庄の瀬戸大橋温泉前でバスを待ちました。定時に到着したバスには、定員の半分ほどの参加者20名ほどが乗っており、その殆どが女性でした。目的地が高地で寒冷な場所であるの

に備え大部分の人が厚着で、中にはオーバーを着た人もいました。市内を出たバスは高速道路を勢よく北進し、いで湯の里として知られる湯原に差しかかります。

湯原は初めての訪問なのですが、私にとつて極めて密接に関連する土地なのです。私は永年にわたって岩盤掘削を伴う地質調査を行い、温泉水や水源開発に携わってきており、端的に言えば私は温泉マンなのです。だから湯原は私の支配地とも言えるのです。私が手がけた温泉源開発は約10カ所、水源開発は約100カ所に及びます。そしてその全てで成功し、成功率は100%となつて

います。2～3回の掘削での成功率100%は珍しくもないでしょうが、これだけの成功率はかなり珍しく、資料がないのではつきりしませんが、新記録かもしれません。日本一ともなれば誠に喜ばしい限りですが、誰も表彰してくれず、賞金も出ませんので、湯原に関連することとして、ここに記載しておくことにします。

なお湯原を流れる旭川の川原には温泉水が自然に湧出しており、現在でも天然の露天風呂として利用されているとのこと。倉敷きつての旅行のスペシャリストである私の友人、西田の小原氏によれば、この天然温泉は泉質が良好で、適温を維持しているとのことでした。自分の指示によつて成功した約10カ所の温泉のいずれにも入浴した事が無いという珍記録の保持者である私ですが、湯原

の天然温泉には、命のあるうちに入浴したいものだと思っています。

現在では、湯原からでも高速道路を利用すると短時間で岡山市、倉敷市など主要な地域に行くことが出来るようになり、通勤・通学が可能となりました。しかし歩行以外には適当な手段がなかった昔は、湯原から他地方へ行くのは大変だったようです。地元に残る里謡には「来いと言うたとて行かりようか湯原 三坂三

里は五里ござる。またと行くまい湯原の湯へは、三坂三里は五里ござる」と歌われています。三坂というのは湯原の北方に位置する国境である峠を越えた伯耆国、すなわち鳥取県側の地名なのです。このことは前述した小原氏の教示によるものです。

います。周辺の山々には、杉や檜の人工林が数多く認められ、林業経営も盛んなことを物語っています。まさに湯原は岡山県の桃源郷と言えそうです。ただ湯原にとつての泣き所は、積雪を伴う冬季の寒さの厳しさだと思われまます。しかし、このことも温暖化が年々進行する世界的な気候変動からすれば、やがて自然に解決されるものと思われまます。



国立公園蒜山高原のシラカバ林



大山（1792 m）とサルビヤ畑

ほど近く、その分水嶺に源する旭川が、山間に開けた小盆地状を呈する平坦地の中央をゆるやかに流れ、豊かな農地が広がり市街地を中心とした集落が点在して

更にバスは北進を続け、県境にほど近い本日の目的地の一つである「ひるぜん 蒜山高原センター」には午前11時すぎに到着しました。ここで中食をとり、土産物の売店の入り口で製造されていた「ひるぜん 蒜山高原饅頭」を購入しました。この菓子は、子供の頃食べたことがある熊本市の名物だったケーキ饅頭に似た味であり、懐かしく思いました。バスはいよいよ県境を越えて鳥取

県に入り、紅葉見学が開始されます。標高800m程度と思われる峠を越えると、緑の樹林の中に赤や黄色に紅葉した樹木が点在し、「秋気全山に満つる」の感が高まります。紅葉樹はブナが主体ですが、シラカバも存在することでした。バスがカーブを曲がるごとに大山(1792m)が雄大な姿を見せては、すぐ消え去ります。一時、大山が広々とした裾野を見せて現れました。青みがかった山頂部から基部に視線を移すと、黄色く染まった樹林に続いて同様な色合いの枯れ野が果てしなく広がります。まさに中国山地に君臨する優美な大山の姿でした。バスは大山スキー場の手前で停車し、その下方を流れる木谷沢溪流に下りて、周辺一帯を散策しました。植生は北国らしく、かなり異なるも

の、清らかな水の流れを見ると若かりし頃、縦横無尽に歩き廻った故郷の急峻にして雄大な山々が懐かしく思い出されました。中国地方は地形的に老年期の中にあり、大山などの新しい時代に出現した火山を除いて高い山はなく、山頂が丸い丘陵地となっていて、大変女性的です。溪流に丸木橋が架けられた所に来た時、ダニに右足のふくらはぎをチクリと刺されました。あわててズボンをまくり上げると、赤い小さな斑点がありました。岡山県人と違う人間が来たからどんな味かと飛びかかったのかも知れませんが、痒みはすぐに消えましたが、赤い斑点は十日ほど残りました。思いがけない旅での珍事でした。

バスは進路を転じ、最後の目的地である「鳥取花回廊」に到着しま

した。ここには広い敷地に各種の花が咲きほこり、一巡するのも大変です。ところが列車風に造られた小さな遊覧バスが用意されていて、運賃300円を支払い、ゆったりとした見学が出来ました。その中でも、サルビア畑の真つ赤な広がりや前景として、雲一つない青空のもとにそそり立ち、紫紺に輝く大山は、まことに見事なものでした。

鳥取花回廊見学を終えたバスは、日没間近な高速道路に入り、帰路に転じて南進します。やがて夜の帳に包まれた岡山市中庄の瀬戸内温泉前バス停に、午後5時30分に到着しました。更にここから自宅を目ざし、午後6時30分の到着となり、推定往復距離200kmの旅を終えました。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

砂時計

— 思い出るままに ⑬ —

小野武己

「Ⅱ」母のこと

⑧ 芋アメの話 (下)

僕は風呂敷包みを小脇にしっかりと抱え駆けて行く。田圃道を抜け、長い踏切を渡る。こんな時に限って踏切の途中で貨車と出くわしてしまう。足踏みだ。貨物列車は長い。三十両なんてぞらだ。「二十五…二十八…三十、えっ、今日は長いな、三十五両…」遮断機が上がるや否や、再び駆け出していく。

町で一番の履物屋さんである「つよし屋」さんは、しばしば母に仕立物を頼んでくれるお得意さんであり、毎回おばちゃんが駄賃にくれる「グリコ」のキャラメルは、子供の僕にとっては正直言って嬉しく、特に箱の上について

いるオマケが楽しみであった。気に入ったものであれば自分のもの、要らないものだったならば妹が弟にあげる。

今日は違っていた。仕立物を届けるや否や「おばちゃん、今日は急ぐけん…、さいなら…」と、キャラメルを持ったまま呆気にとられているおばちゃんを後に踵を返して再び走って戻ったのである。

「お母さん、届けたけんね…」と玄関から母に知らせると、浦さん家に舞い戻り、上がった息をそっと整えながら皆の輪の中に滑り込む。どうやら浦さんのおばちゃんの仕事も佳境に入ってきたようだ。

「よいこらしよ、うんこらしよ」

浦さんのおばちゃんは額に浮き出す汗をも厭わず、力を込めて茶色の塊をこねている。我が家でも時々つくるイモキントンとは違って、おばちゃんがこねている芋はなんだかねバネバとしてキラキラと光っていた。紙芝居のおじちゃんが荷台に積んだ箱の引き出しから缶々を取り出して、見物料の五円を払った子供たちに棒の先にくるくるとくっつけて渡して呉れ、そのアメを舐め舐め黄金バットや怪傑白頭巾や白馬童子などを興奮しながら見たのだが、あの

水飴でも加えたのだろうか、だんだんと粘り気と輝きが出てきているみたいだ。

やがて琥珀色に変わった粘り気の出たお芋の塊を「よいしょ」という掛け声と共に玄関の横の柱に打ち付けてある五寸釘に引つ掛けてビューと伸ばす。伸ばしては再び釘に引つ掛けまた伸ばすという単純作業を繰り返すのだった。子供たちの目は、その作業に合わせ、釘から手元へ手元から釘へと移動していく。

おばちゃんは、額の汗を手の甲で拭い「そら、もうすぐ出来るバイ」と言いながら、思わず知らずだろうがペツペツと手の平に唾を吐きかけては再び作業を繰り返すのだった。

おばちゃんは、さあてもう一度かな…と独りごちながら再び額の汗を拭い、手の平にペツと唾を吐き、釘に引つ掛けた芋アメをギューンと伸ばす。ちょうど親指の太さになったところをハサミでチョンと切り、もろぶたの上でくるくると均一に丸く伸ばす。棒状になった芋アメにメリケン粉をまぶし、もう一度手の平でくるくると細い棒状に伸ばしていく。そしてハサミで素早く一口大に切り落としていった。

⑨ 初恋？

ある日芋アメ作り名人の浦さん一家は何処かへ引越して行った。

そしてすぐに、その家に近藤さんという若い夫婦が入居してきた。多分夫婦とも三十歳前くらいであったように思う。子供はまだいなかった。

近藤さんのご主人は当時子供たちの憧れの的であった「国鉄マン」であった。

何故かという、機関車や列車の入れ替え作業の時にあご紐をキリッと絞めた紺色の作業帽を被り同色の制服を着て機関車の運転席の窓から上半身を乗り出し、鋭い眼差しでもってキツと前方を睨んでいる機関手、前方にはもう一人の白手袋をした国鉄マンが、赤と白の手旗を左手に持ち、線路の切り替えハンドルを指差し確認しているのを登校の途中、しばしば踏切で足止めを食い「学校に遅れそうばい」とブツブツ言いながらも眺めるのだが、そうした姿を見て子供たちは単純に「国鉄マンちゃ、カッコいいなあ」と口々に言い合っていたものだった。

「さあさ、お待ちどう、出けた、出けたばい」
「皆んな、手を出しなさい」

子供たちは紅葉のような両手を合わせて受け取る。すでに泣き虫トクちゃんは二個も頬張ってほっぺが膨らんでいた。

「美味い、美味かねえ」

「ターちゃんも手を出しなよ、ほら、ほら」

おばちゃんはアメをザクツと掴むと僕の手に乗つけてくれた。鼻屑目かも知れないけど皆より沢山だ。だが、なんだか急に僕の心はげんなりしてしまい、「おばちゃんありがとう」と言う、アメを両手に握りしめたまま、我が家に飛んで帰ったのだった。

ニワトリ小屋の裏に来て、僕は両手を広げた。芋アメはべつとりとなり指にくっついていて、メリケン粉はまたらになって、僕の手の平を白く染めていた。

僕は、その二つを摘まんで、口に入れようとしたのだが、浦さんのおばちゃんのペッペッペッが瞼に浮かんできて、ついに芋アメさんは僕の口には入らなかった。

僕は学校から帰つてくると、まず母の和裁の裁ち台の隅っこにちよこんと座って宿題をする。そして宿題が一段落すると「肥後の守」で鉛筆を削りながら、間わず語りに今日の学校での出来事を話す。

「お母さん、俺い、何でか知らんばって、ローマ字の苦手とたい。通信簿はオール５ばってんが、こいだけが好かんとたい。本田先生な、そいば判つとって、真つ先に当てらしたたたい。先生、意地悪かねえ…。もうよろしいって言うのも聞こえずに夢中になつて読んだつちやが…。したら隣の席のマサちゃんが、袖を引つ張つて教えてくれたと…。恥ずかしかったあ」

「そうねえ、だけど、苦手があつたらダメとよ。本田先生、判つとって、タアちゃんに当てらしたんだと思うけど」

「ふーん、そがんじやったとやろかあ」

僕は、下に敷いた新聞紙に鉛筆の芯を当てて、クルクル回しながら肥後の守で尖らせていく。

母はシヤカシヤカとお針の手を進めながら、もう一言。

「ターちゃん、ごめんばって、前の近藤さん家に行つて、

醤油を借りてきて頂戴ね」

「よかよ、行つてくっけん」

僕は肥後の守をたたむと、湯飲み茶碗を持つて駆けて行く。勝手口は二間ばかりの軽い登りになった通路と側溝を隔てて我が家の真ん前だった。丁度、そこにおばちゃんが居た。

「おばちゃん、ごめんばつて、醤油ば貸してつて、お母さんが…」

「醤油ね。良かよ。返さんでいいつて、お母さんに言うてね」

若いおばちゃんは醤油の一升瓶からトクトクと湯飲みに注いでいる。湯飲みに注いでいる近藤さんのおばちゃんの横顔に、何故か不思議な郷愁みたいな感覚を抱いてしまったような気がした。自分の姉とは異なつた女性の匂いを嗅いでしまったのかもしれない。髪をふわりと浮かせ振り向いたおばちゃんはニッコリ笑つて醤油満杯の湯飲みを手渡してくれた。

「ありがとう」

思わずおばちゃんの視線を意識してしまつて、ポツと頬

鳥肌が立つ。くそつくそつ頭から水を浴びる。

「お母さーん、にきつと（少し）寒かがあ、お湯ば持つて来てえ」

「あらあらまあ、行水してるの…、寒かろうに…」

そう言つと、お湯を洗面器に満たし三杯、四杯と頭からかけてくれる。やがて身体も温まり、ようやくタライから出ることが出来た。

すると後ろから優しくタオルで背中を拭いてくれる母があつた。このところ直接的なそうした母の温もりは絶えて経験した覚えが無かつた。

「頭も良く拭かんばね」頭もごしごしと拭いてくれた。

身体は温まつたものの、縮こまつたままのチンコを両手で隠している僕。そして、隣のおばちゃんに対して知らず抱いてしまったほのぼのとした、しかしズキンとした感覚を悟られまいとして「服ば着てくるけん」と言うなり、そそくさと奥の部屋に飛んで行つた。

当時はどこでもそうであつたと思うが、何ごとにつけ向こう三軒両隣り、助け合い補い合つて生きていたものだ。

寒いので、野球はオフ・シーズンであつた。

を染めてしまった僕はなんとはなしのバツの悪さを感じてしまつたが、しつかりとお礼を言い、湯飲みを捧げ持つて逃げるようにして家に戻つた。我が家の玄関を跨いだ時、どうしたわけか突然に背中にズキンと戦慄が走つた。な、なんだこれは…と思つた途端、チャボンと醤油が僕の手の甲を濡らした。

「あ痛つ、しもた、お母さん、醤油のこぼれたばい」

縫い物の手を止め障子を開けた母は

「あらあら、ズボンにもかかつてしまつて…。早よ脱いでタライに浸けなさい」湯飲みを受け取つて、母は台所に立つて行つた。僕は裏に廻り台所の土間にタライを置くと、急いで森田さん家の井戸から汲んできた水を満たした。

ズボンをタライに浸し、醤油色になつた手をチャプチャプと洗う。タライの水面に映つた自分の顔と、なんと近藤さんのおばちゃんのニッコリと笑つた顔が並んで映っているではないか。と再び何か知らないが背中を走る不思議な感覚。いかんいかん、ブルブルと頭を振ると、そこにはもう僕の戸惑つた顔しか写つていなかった。えいくそ…僕は服を脱いでタライに飛び込んだ。うわつ、冷たつ、全身に

以来、僕は母の言い付けで、お隣さんに物を借りに行くのを秘かな楽しみにしていたのだが、その後、なかなか出番が巡つてこなかつた。しかし幸運はしばしば予期しない時に突然に訪れるものである。裁ち台の端つこで宿題を終えた時に、母の声が掛かつたのだ。

「タアちゃん、近藤さんのおばちゃんから、お米を借りてきて…」

「はい」

僕は飲び勇んで一升枡を手を走つて行く。

「おばちゃん、これに半分、お米ば、かしてください」

「よかよ」

おばちゃんはいつものようにニッコリ笑いかけてくれた。

当時、駅の近くに国鉄の物資部と称し国鉄の職員のみが利用できるストアがあつた。品物はどれもこれもバカ安だつたと記憶している。気の良いおばちゃんは、子供の多い、そして苦しい我が家の現状を見て、国鉄の物資部で買ひ物するように勧めてくれ、ある日、いつでも一人で行けるようにと僕の肩を抱いて連れて行つてくれたのである。ふと、何かの拍子に横を向くと、おばちゃんの胸の谷間に

顔が埋もれ、子供心にも、おぼちゃんの仄かな良い香りに酔い痴れるような感覚を覚えたのだった。

その後、母の言い付けで、近藤さんのおぼちゃんから国鉄職員を証明する「鑑札」を借りては、お米・醤油・電球・障子紙・子供下着など、いろいろな物を買に行つたのであった。知らん顔して堂々としておれば良いものを、本当は国鉄職員ではない、というある種のうしろめたさを感じて、支払いの時、妙に胸どきどきしたのが忘れられない。

その新婚さんも一年ばかりして引越して行つた。

ふと漏れ聞いた噂で、中学校の近くに新築のお家が何棟か出来て、その一軒が近藤さんの家だと知り「やつぱ国鉄マンちゃ、かつこええなあ、若くして家が建てられるっちゃ」と感心した。そして、中学生になったら、毎日その家の前を通つて行き来するのだと思つたら、急に中学進学が待ち遠しくなつてしまつた六年生の僕であつた。それが、初恋(?)というものののだろうか。

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

坂本工場関係資料⑧

大谷高寛

熊本県天草郡本渡町で嘉永3(1805)年に生まれる。生家は庄屋。竹添井々に漢籍を学び、農兵隊長になつたのち、23歳で戸長、校区取締役になる。校区取締役は明治5年発布の学制により設けられた制度で、地方長官がその土地の有力者(名望家)から選任した。戸長と兼任する例が多く大谷はその一人で、「名望智力アル者」(「学制」第四章)とみなされたことになる。明治15(1882)年、大谷は熊本県会議員に当選し、政治に身を入れた。同年、本渡町(現・天草市)溝端地区に明治15年に施無畏橋がつくられたさい、大谷は、その工事資金を提供している。そのとき、大谷は32歳であつた。

県会議員としての当選を重ねたあと、明治36年には第16代の県会副議長に選ばれ、しだいに九州における国権党の重鎮の一人と目されるまでになった。日露戦争後、大谷は漁業開拓を企図して満洲に渡るのであるが、県会議員はその

各種書式取り揃えております。

新年のごあいさつ

年賀状印刷承ります

年賀状持ち込み歓迎!

印刷料金(税込・はがき代別)

10枚 2,880円	70枚 5,050円
20枚 3,180円	80枚 5,440円
30枚 3,490円	90枚 5,820円
40枚 3,880円	100枚 6,200円
50枚 4,270円	150枚 7,990円
60枚 4,660円	200枚 9,690円

以後は1枚20円アップ

※モノクロ印刷は2割引きです。

元日に届けるためには
12月25日(水)までに
投函しましょう。

2020(令和2)年用
年賀葉書は2019年11月
1日(金)から売り出され
ています。特に喪中ハガ
キはお急ぎください。



人吉中央出版社 TEL23-3759

後も続け、明治44年と大正4年には議長に選出されている。

大谷は、県下有数の水産業者で、新しい漁場の開拓をめざして韓国の沿岸を視察し、韓国水産組合の前身「韓国通漁組合」を組織した。大谷は、若い頃から満洲に関心をもっていたが、日露戦争後、戦地から帰還した漁夫の口から「関東洲は漁業資源が豊富である」との情報を得てから、その傾向は一挙に強まった。大谷は陸軍大臣の許可を得たのち、多数の漁民を引き連れて満洲にわたり、大連に「天草組」をつくりあげた。

大谷は、漁業以外にも関心をもち、各種の企業にもかかわつた。東肥製紙株式会社への経営参加はその一例である。彼は同社の常務取締役になつたのち、明治35年6月4日には、取締役社長に昇進している。「昇進」といっても、坂本工場の火災とその復旧、日清戦争後の不況による財政厳による藤村紫明の失脚の結果であつて、大谷は同社を再建できなかった。彼の時代に、東肥製紙株式会社は倒産にいたる。倒産を機に、坂本工場は第一段階を終了し、次の九州製紙株式会社時代(大川平三郎の時代)に入ることになる。大谷は大正12年10月に没した。享年75歳であつた。(春秋)

年念し
450 誕生
き下ろし
生記書

小説・相良清兵衛

24

山口啓二

寛永十七（一六四〇）年九月五日、幕府は老中阿部對馬守重次、阿部豊後守忠秋、松平伊豆守信綱により、江戸津輕屋敷から弘前までの駕籠と馬五頭と人足を用意するよう、弘前藩主津輕土佐守信義公に申し付けた。弘前の老臣大道寺隼人と松野大学はすぐにその手配をし、江戸屋敷に向かわせた。更に幕臣渡辺図書助宗綱は弘前の両老臣に向け早馬を走らせ、清兵衛のこの度の処置のいきさつや、先ごろ起こった相良家での内乱のこと、また清兵衛の人となり細かく詳しく記された書状を送った。更にこの時、預かりおいた腰の大小と清兵衛の煙びやかな装飾の『槍』も送り届けさせていた。およそ『流人の処遇』とは思えぬ沙汰であった。『幕府あげてこれだけの御沙汰をなされとは、津輕家としてもそれ相応の処遇をせねばなるまい』ということになったのである。

その後清兵衛ら六人は津輕家臣吉岡重兵衛によつて『護送』され、十月九日弘前城の西一里程にある高屋村の寺に

【前回までのあらすじ】清兵衛はあらゆることに力を発揮していたが、ついに相良家最大の御家騒動『お下の乱』が起こった。幕府からの呼び出しを受け江戸に向かった清兵衛は『流罪』という裁きを受け、七十三歳の身ながら弘前藩津輕家へお預けの身となった。

着いた。弘前は既にみぞれ交じりの雪が降り、これまで球磨では味わったことのない厳しい冬が訪れようとしていた。

また孫の喜平次は既に三十二歳。『乱』の当日は二人の娘万徳姫と亀寿姫とともに西村の新宮寺に亡き妻の墓参に出掛けていて命は助かった。喜平次の母親は島津家佐土原城主島津忠豊の妹であり、そして妻は二十二代相良頼寛公の実の妹『御万の方』という微妙な立場であったが、その妻は三年前にすでに亡くなっていた。結果幕府からは特段のお咎めもなく、そのあとすぐに島津家が三千石で喜平次を迎えた。

年が明け弘前の暗く厳しい冬がようやく終わり、少し

だけ春の暖かさが感じられる頃、弘前藩主津輕土佐守信義公が参勤を終え帰国なされた。清兵衛は剃髪して『入道本然』と名乗っていた。本然はかつての朝鮮を思い出すかのような厳しい冬の寒さを味わった。一間ほど積もっていた雪もまだ半分以上残っており、九州では一番の山間僻地・球磨でさえこういう雪など経験した事は無かった。

「朝鮮の冬を思い出させるほどの寒さじゃ。あの頃は若かった故なんとか耐えられたのだが、もうこの年になるといささか辛いぞ。のう勘右衛門」

傍には肥後人吉から江戸に同行し、弘前まで着いて来た従者五人のうちの乙益勘右衛門、豊永与兵衛、馬場園頼斎がいた。

「左様でござりまするか。我らは朝鮮の寒さを知りませぬゆえ判りませぬが、いやこの寒さは尋常とも思えぬほど凄い。家の中に居りましても吐く息がそのまま凍ってしまいそうにございます」

「ときに与兵衛、信義公が参勤

から戻られたそうじゃが、どうにかお会いできぬものかのう。一度直接お会いして此度の礼を申し上げておかねばなるまいて」

豊永与兵衛は清兵衛本然が最初に妻とした『おその』の一族で、朝鮮・蔚山で討ち死にしたその兄・豊永長式ながもりの孫にあつた。目鼻立ちの整った体つきのいいなかなかの好青年である。

「は、江戸からは先日お戻りのご様子ですが、なんでもすぐあと発病をされたとかで、ご帰国ののちしばらく伏せておいでよう」

「ほう、それはいかな。してご容態はいかがじゃ」

本然の問いに従者で一番若手の馬場園頼斎が答えた。彼の父は相良家家老を務め、その嫡男であった。すらりと背の高いなかなかの男前だった。

「食が進まず発熱の上に下痢におう吐の繰り返しだそうにございます。参勤中の江戸でもたびたびあつたそうに伺います」

「ほう、そんなに具合がよろしくないか。そういえば此度の御沙汰を頂いた折に参府中の信義殿にお目通りを願ったが、その時も伏せておいであつたよなあ、とうとうお

■主な登場人物

相良清兵衛（犬童頼兄）＝相良家 家老
土佐守信義＝弘前藩主

会いが出来なんだ。では今から薬を調合致すによつて、それをお持ちするがよからう」

城に使いを出し薬を届けてから数日後、降り続いていた雪もようやく止み久しぶりの青空がのぞいた午後、立派な駕籠が屋敷前に乗り付けたられた。城からは一里近く西に離れた高屋村の寺が本然の蟄居先であつた。

「清兵衛本然殿はこちらでござつたのう。土佐守信義にござる。お届けいただいたあの薬のお陰ですっかり具合が良うなり申した。有り難き事にござつた」

「おう、これはこれは土佐守殿。こちらこそ此度のお礼を述べに参上せねばなるまいに、何せ拙僧御承知の如く幽閉の身、いかんせん外出もままなりませんで。ささ、どうぞお上がりください」

「本然殿、先日あの薬が何ともよく効きましたのう。今日はそのお礼と、本然殿と少々昔話をしたくなりまして。祖父三成と懇意になされたと同つておりますれば、その頃の話でも伺い出来ますまいかと」

「あの薬お役に立ちましたか、それは重畳。左様でございまするなあ、石田殿には同じ相良家臣で家老職を務め

ておつた頃の同僚が拙者を陥れようとした折に、お助けいただきました事がござりました。流石に関白秀吉公の懐刀、なかなかの知恵者に御座りましたなあ。何事にも計算鋭き方、事この上なかつた方で御座り申した」

「そつでありましたか。朝鮮でも度々御一緒だつたやに。

祖父は最後まで豊臣方の味方をされ、遂には関ヶ原で徳川様とあいう事に相成り、誠にもつて残念でござつた。我が津軽家も父上は義父の三成公に付かれましたが、最後は徳川様の御味方をいたし申した。聞き及ぶところによれば、我が父信牧の家中の者が大垣城での手引きの役割をされたとか。それでこそ今がありますれば、結果、お互い良かったと申さねばなりませんまいなあ」

「そついう時代でございましたなあ。我が相良家も津軽家も小藩ゆえに何度辛い目にあつて来た事か」

「誠にもつて。ときに、主君人吉藩相良家の菩提寺に、祖父三成の三十三回忌供養塔を建てて頂いておるやに伺つておりまするが」

「はあ、あの戦いで奇しくも御命を落とされた石田殿はじめ、大垣で亡くなられた垣見殿他の方々の供養をして差し上げたいと、先君長毎公のかねてよりの願ひにござ

ざつたが。そうじゃ、その種を取り寄せてみては如何にござらう」

「早場米とな。それは妙案、ではさつそくお手配いただきませぬか」

「かしこまつてございまする。ときに、昨秋お手前の田畑を見せて頂いたが、少し手を加えて水の便を良くした方がよからうて。雪が解けます前にぜひご家中の方をお使いあそばせますよう」

「それは誠にかたじけない。早速そのように段取りをいたしまする」

「稲は夏の暑い時期に田んぼにたつぷりと水を溜め、しっかりと暖めてやるが肝要。さすれば稲穂が沢山付きます。秋にはそれは見事に実りますぞ。寒くなる前に刈り取ることも出来まする」

「そつでござりまするか。いやはや今日は思わぬ収穫を頂きましてござる。貴殿をお引き合わせ下された祖父三成に感謝いたさねばなるまいな」

「誠にもつて縁とは不思議なものにございまするな。ときに、ここにはまだ未開の土地が多くあるように見受けられます。このち新田の開墾も残つておりますれば、不肖

りました。幾度も幾度も夢枕に立たれたとかで。それで三十三回忌を迎えた折に法要を執り行い、相良家の菩提所願成寺に各々の五輪の供養塔を建てて進ぜたのでござる。その御縁でござらうか、拙者ここいまだに生き長らえこうやつて此処弘前におりまする。まことに不思議な事にございまするなあ」

「左様でござつたか。仰せの通り誠にもつて不思議な縁でござる。ときに、弘前は肥後の国からしますとえらく寒うございましょう。余も早くに母を亡くして幼少より江戸住まいだった故、最初の頃この寒さにはまことに驚き申した。本然殿、暮しに何ぞ不自由があればここに控えます進藤正継めにお申し付けください」

「ありがたきお言葉にて。この寒さは朝鮮以来だと供の者とも話していたところで。さすれば殿、このような寒い処で米などは作れるものにございまするか」

「それがのう、植えたるときは威勢が良いのじゃが、夏の頃に寒さが来れば秋には殆ど収穫は望めませぬ。何かいい知恵があらばよいものじゃが」

「そつでござらうのう。そういえば我が球磨や天草では秋の台風が来る前に収穫が出来るように早場米を植えてご

本然、及ばずながら信義殿のお役に立ちとう存しまするが」

「それはありがたい。重ねて御礼申し上げます。今日はこれにて失礼いたすが、ぜひ又いい知恵を授けて下され。祖父の昔話ももっと伺いたく存じまするよつて」

僅か十三歳で家督を継ぎ、まだ二十三歳の若殿は思つたより真面目な好青年に見えた。早くに家督を継いだためにその分苦勞も多く、お家騒動も度々経験していたのであった。

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

復興の道なお遠き民の目にいかに映るや大嘗祭は
税金を置いて身内をオモテナシ安倍の犯罪「桜を見る会」

柳原 三男

秋深み球磨の里々霧深く霧よりいでて霧に消えゆく
広々と黄金の稲田広がりにて稲穂の波のかそけき音す

坂本 ケイ

一秒でも多くあなたと生きたしと語れば夫笑みてうなずく
寝返りのひ孫の動画に見入ったり紅引き終えていざりハビリに

上田 廸子

美ら海とはよくぞ言いたり息を呑む辺野古の海の深き藍色
難病の妻はうなずきつつ聴きぬ熱き沖縄の土産話を

上田 精一

お休みどころ通信 ⑩

療育センターで話す

精神科医 興野康也

子どもの診療をしていくご紹介
いただくのが療育センターです。熊本
県の場合3カ所あり、県の南部は宇城
市にある療育センターが担当していま
す。人吉球磨の場合も、未就学児につ
いては、保健師さんが健診や発達検査
などで受診が必要と考えた場合には、
ほとんどを療育センターにつないでいま
す。結果的に療育センターは新規受診
の待ちが長くなり、全国的に半年程度
と言われています。

療育センターのドクターには僕もい
ろいろお世話になっています。I 医師
は人吉の発達相談外来をされています

たので、僕は見学して学ばせていただ
きました。また子ども支援チームの研
修会でもお話いただきました。Y 医師
は地域の支援職とのグループワークに
参加してくださいました。他のドクター
とも子どもをご紹介いただくときに書
面でのやり取りをしています。

そういうわけつながりが多く、い
つか施設見学をさせていただきたいと
思っていました。療育センターは多忙
で3カ月以上予定が埋まっていますが、
お願いしてやっと10月28日に訪問でき
るようになりました。施設を見ることが
できれば、どんなふうに連携してい

けばいいのかが見えてくるはずす。

またY 医師から僕の支援活動につ
いて小児科のドクターに話してください
と依頼をいただきました。いろいろ考
えたのですが、お休みどころでの相談
も含めて精神科の地域支援についてお
話し、そのなかで成人の発達症の問題



療育センターの外観

などを取り上げることになりました。お休みどころの活動を正面から講演するのは初めてですし、しかも小児科のドクター相手なので、どんな反応になるかは未知でした。かなり緊張し、資料作りにも時間とエネルギーを要しました。

当日を迎えました。人吉市と宇城市は比較的近く、しかも療育センターは松橋インターを降りてすぐです。高速道路をかなりゆっくり走っても50分くらいに着きました。玄関でお会いしたY先生は看護師さんたちと熱く議論しておられ、エネルギーでした。そのあと互いの課題について話したのですが、時間がすぎて見学は全くできませんでした(笑)。

療育センターは県の三次医療機関であり、本来なら「かかりつけの小児科」圏域の二次医療機関で療育セン

ター」という流れでつながるはずなのですが、低年齢の発達症の子どもたちについては、いきなりみんなが療育センターに殺到するために、新規受診の待機期間がなかなか短くなりません。地域の小児科や精神科がもっと診療を行う必要があります。ここが大きな課題で、Y医師も悩んでおられました。

講演の時間になりました。意外なことに、ドクターだけでなくいろんな立場の職員さんたちが20〜30人ほど集まってくれました。僕は初めての話なので時間配分がうまくいくかが心配でしたが、ちようどうまく55分ほどで終わることができました。皆さん聞き入ってくださっているのがわかり、質問もあつてうれしかったです。お休みどころの相談活動も肯定的に受け止められたようで、ホッとしました。

そのあと小児科のドクターが皆さ

ん集まってくださり、連携のあり方などを話しできました。結局は小児科と精神科の役割分担が必要で、思春期の二次的な問題(暴力・ゲーム依存・引きこもり・自傷行為や自殺企図・窃盗・わいせつ行為など)については入院可能な精神科でないと難しいとお話でした。療育センターのドクターたちから頼りにされていると思うと、とてもやりがいを感じます。

施設見学は次回になりましたが、今度は病院の同僚たちと訪問させていただくことになりました。療育センターとのつながりが強まり、うれしい限りです。発達症の支援は一つの医療機関にとどまるのではなく、社会的な課題です。協力できる支援機関を増やして、多面的な支援をしていけるように努めたいと思います。

【おきの・やすなり／人吉市】



—「桜を見る会」に首相の地元後援会関係者が多数招かれていた—

今年の参加者は18,200人、その支出は5000万円。安倍事務所の参加者名簿はなし、夕食会の見積書もなし。内閣府の招待者名簿破棄は許されない。

外来語から学ぶ英単語 (45) …… 藤原 宏

ア・アン・ワン・アローン・ローン・ローンリー・オンリー・ワンス
a an one alone lone lonely only once

「a・an・one」は「一つ」を意味する三姉妹です。学校では、「an apple (アップル) (一つのりんご)」のように母音の前ではaはanとなる、と説明しますが、歴史的には「子音の前ではanはnが落ちてaとなる」が正しい言い方です。そしてone (ワン) はa (ア) の強意形でした。

「alone (アローン)、ひとりで・ただ…きりで)」は「all (オール・すっかり) + one (ひとり)」が原義ですが、これには感情的要素はありません。寂しい意を表すには、さらにallをつけて「all alone」とします。

「lone (ローン)、独りぼっちの」はaloneの頭音消失異形で同義ですが、主に詩語として使われる他は、「lonely (ローンリー)、ただ一人で (寂しい)・人気のない」

「lonesome (ローンサム)、(主に米) 独りぼっちで寂しい・荒涼とした」など複合語を作ります。

only (オンリー) はoneに接尾辞「-ly」がついた形ですが、「only one (たった一つだけ)」のように強意的に使われます。

「once (ワンス)、一度・かつて」の「-ce (ス)」は、副詞形成語尾で昔はonesと綴られました。属格「-s」の転用と考えられています。

(412)

方言を味わう④

稲留三郎の世界 19

年中行事 補遺の巻



前田一洋

前口上

いよいよディチャーランニング、おつと教養が先走りして御免なさりもうせ。師走と言え、別に欲しゅうもなか歳取つとに、走つやりイテウツ倒し、そして百太郎溝にサデこけんばよかかと思ふほどの忙しき。借金取る方も取る方もセシきなこと。

そいが上、師走とぞ言うにこのぬくさ。やつぱ地球温暖化の“お陰”でござんそう。餅も搗くかつとしゅホバぬる(カビが生える)かもしれないもさんな妙な世ん中やしなつたもん。新聞に出

つつもしたごと、今世紀のしみや方にや南極やら北極の氷もいつとけてしてもて日本中がうんぶくるるかも知れず。

さて今年は『熊つれづれ咄ノ一』に記録された年中行事の数々を楽しんで頂きました。ただ紙数のため割愛した部分もありましたので、年度末に際しその幾分かを掲載し「年貢の納めどき」にさせて頂きたいと思います。

女の正月礼

客「おうちいござんすか」と言うを聞いて

主「あい、あら誰かと思め申したれば、お前さんでござんしたか。さあ、お上がりなさんし」
「ごめんなさんし」と言うて客座にすわれ、互いに天氣の挨拶、旧冬、歳暮のお礼ことば、正月の礼ことば済みて、茶雑煮冷酒と出す。

在郷ことば

客来たりて「居りやるか 居りやり申すか 居るかぬう(旧来の身分や立場で言葉遣いが違う・次の迎える側も同)」

亭主「来やつたか・来たぬう・来めしたか、久々に・久しゅうぶりに見相(お会い)した、みんな達者、嚴重(丈夫) かつつろ。健気でよかばい」。

種撰り

色々あれども、水一斗ばかりに塩四升入れ拌ぜたくつて、それに上よりそろそろ入るれば、六七歩は浮くこれは皆取り上げる。三四歩沈む、塩水をじき外の桶に移して水にて濯ぎて、また水を入れておく。この塩撰びが上等なりと、阿蘇南郷久木野村浅尾源八君の法なり。水にかして五日六日目に苗床に蒔き込むなり。

四月二十八日

「もう田も植えてサナボリしたで、何でも新寺(水上村の猫寺)参りしゅうや。めーろろじやあるめーか、よかろろばい参りもそうや。握り飯、お賽銭ばかりでよかろろばい。これは盛誉の母玖月善女人水して死んやつた命日ばい」。

九月十日十二日相撰(前略)

「きゅは日和りもよかでー山田ごう(人吉にあった花街)もハズもうばい。お前達もみんなちえぬうで行くちゅうて、隣の二郎太郎五郎三郎おめき合せて、着物帯へコ手ねげー足袋ボクリ下駄コブツ傘、手にひつ下げて阿亭(父親)阿母(母親)、それじゃまあ行たて来もそう。そらそら人がおめくおめく早うしもうて行たてきやい、おおそれじゃ行たてくうばい。しやりむのうしちゃうおるでー早う戻つて来やい。もう遅うしなる、走つて尻つぶつて、裸足い走つて行け」。

こらこら、ゆんべ一寸した夢見た。それを一寸語ろ、聞きやれ。昔々その昔の人の咄には、所ア忘れてしもうたが、山の中の細道に百ばかりの老人が木の根張りに腰掛けて、たばこを呑んでおりめしたげな。それに

行き逢うたげなが、こなたはどきイ行くかぬう、どこから来たかよ、名あ何ちゅうかよ、年や幾つかよと云え。わしゃー東からも西からも来ん、年やー三百ばかり。名は一新太郎の孫、開化の五郎八、源氏と平家のあえもん、漬物沢山寺の住持の弟子たい。この頃ア世の中が開けた開けたと云いめすが、もうよつぽど開けつろるかぬう。まあワシが云うこと一つどま知つておるかよと、穢か汚れた手で、何か書アたもん広げて見せられたれども、その事柄は此通り。(ここで又もや紙数切れ)

十二の干支頭になろうと、モウスビードで走つて来る牛のピンタにチョコんとねずみが一匹。かくて子丑寅卯辰…と、よいい歳を。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

三種の神器

久馬 凌

三種の神器といえば、ジャガイモ・人参・玉ねぎである。この三神器があればカレーができるし、シチューもできて、ひどく重宝である。カレーとシチューは親戚ではないかとの意見もある。確かにカレーは印度語族に、シチューは欧州語族に属し、遠縁（いわゆる「むかし縁家」）にあたるが、現在では、戸籍上のつながりはない。これに対して、親戚と遠縁を「戸籍」で区別することには無理がある。そこでいう「戸籍」とはなにか、親戚と遠縁を区別する合理的理由はあるのか、といった疑問がだされているが、ここでは、「属地主義」にしたがって両者は別であるとする通説を支持したい。カレーをつくるつもりでカレーシチューになってしまうときはどうすべきか。そのときには、最初からカレーシチューをつくるつもりであったといいつつ、シチュー語族に挑戦してみたと返事するのが無難だろう。シチューをつくるつもりでポタージユになってしまうときもある。この場合には、戸籍問題は発生しないので安心していい。

三種の神器は肉ジャガの必須アイテムとして有名でもある。肉ジャガの場合、「肉」は牛肉か豚肉かの争いがあることは周知の通りで、その争いはカレーとシチューの間でもみられる。近年は、鶏肉と馬肉も「肉」紛争の当事者として認知されている点にも注意したい。現状では、「馬肉」がいくぶん劣勢とみられているものの、これを強く支持する固定票が約3割いるらしく、肉紛争から脱落していない。鯨肉の再登場もありうるこのウワサを耳にするが、世界の流れを無視した暴挙との見解があり苦戦している。こういう状況なのか、「鹿肉」の登場に注目が集まっている。支持率は「鯨肉」を追い越したとの下馬評もある。専門家は、統計数不足を理由に未知数とするとともに、弱点として猟友会の高齢化をあげている。

肉は一切不要とするベジタリアン派の台頭も目立つ。カレーとシチューは安泰だとしても、肉ジャガはいずれ存亡の危機を迎えるのではないかと予想するむきもある。綱吉とともに消滅したはずの「生類憐みの令」派が地下に潜伏しているとの情報ときどき流出している点が気になる。

三種の神器は、いずれも人気者で、特にジャガイモは女性支持層の約9割を固めている。ポテトチップスにみられるよ

いとその評価は高い。三種の神器に、キャベツを加えて「四銃士」という人もいるが、神器と銃士は別とすべきだろう。

壇ノ浦の戦いで三種の神器は失われたのではないかとの意見もある。確かに高倉天皇の年齢を考えると、壇ノ浦で同天皇が人参を投げ捨てた可能性を否定できない。人参を粗末にする子どもが増加する恐れがあるとの大人の事情をもちだして壇ノ浦に触れることを避ける向きもあるようである。

【きゅうま・すぐる／八代市】



タマネギ 生で食べると辛い、加熱すると甘みがでる。収穫後、天日で乾燥させると長持ちする。冷蔵庫に入れず軒先に吊るしておけばいい。「玉ねぎの皮をむいていく」という慣用表現がある。「本当のことが次第に分かっていく」という肯定的意味と、最後には芯だけになり「本当のことはなにも分からなくなる」という否定的意味があるが、後者の意味で使用する場合がほとんどである。



ジャガイモ 別名「馬鈴薯」。行政統計は別名を使うが、くまがわ流域では「じゃがいも」と呼ぶ人が多い。皮を剥いて塩で茹でるとホクホクになってそれだけで美味しい。アイルランド人の主食として有名。

ジャガイモ飢饉のときには多数の死者がでたほか、アメリカに新天地を求めて移住した者も多くでた。ケネディー家の先祖は移住者のひとりである。日本には1598年頃にジャカルタ経由で入った。したがって豊臣秀吉はジャガイモを食していない。



人参 摺りおろしてジュースにできる。スティック状にして塩やドレッシングをつけて食べても美味しい。漬物にもできる。ナス（酢和え）の必需品である。馬の好物とされ、「馬の鼻先に人参をぶら下げる」という表現があるが、本当に、馬の好物であるかは確認されていない。



クリームシチュー 三種の神器を、牛乳を入れて煮込んだシチューの一種。一般には、鶏肉が合うとされている。「クリームシチュー」は和製英語で、海外で「クリームシチュー」といっても

通じないので注意が必要。米を主食にしたときオカズにできるように日本で改良されてきた歴史にともなう料理名である。一部の若者は、これを「冬の定番」とするが、その歴史は浅い。

字図で見る球磨の地名 ③④ 上村重次

嬉野 (ウレシノ)

— 錦町木上 —

錦町木上字嬉野は旧高原飛行場跡開拓地内の小字地名である。南側は字境木（サカイギ）で、相良村柳瀬との境界になっている。嬉野の西側は柳瀬字浜ノ上（ハマノウエ）。浜地名については項を改めて述べるが、区域の端間（はまノ境地）の当て字らしく、海岸よりも内陸部に多い。

この一帯は高原（タカンバル）とか血敷原（②③⑥号で紹介）と呼ばれ、厚い砂利層があつて保水力がないため不毛の地として原野のまま放置されていた。農地としては最悪条件の原野が何故に嬉野という地名になる

のだろうか。

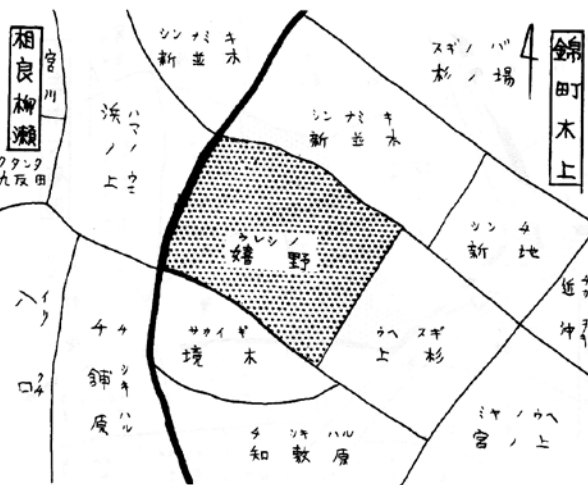
熊本県内市町村字名四万三千件余の中で嬉野は錦町の一件だけであるが、『日本地名索引』には、兵庫県と佐賀県の嬉野が出ている。佐賀県の嬉野は温泉と茶で有名である。『日本地名ルーツ辞典』には佐賀県の嬉野の他に三重県一志郡嬉野町があり、地名由来としては「垂仁天皇の皇女倭姫命がこの地に滞在した折り、阿坂山の悪神を平定したのを喜んで、宇礼志」と名付けられたとの伝承による」と記すが、神がかりの地名説話はあてにならない。

同書の佐賀県嬉野の項では、地名由来として①神功皇后が湯浴して病気が治り嬉しいと言われた②豊玉神

がら地名を地形名称の視点でしか見ておらず、土地区域（境界）の名称とする発想が欠けているため、嬉野を河川水源地の表現としてとらえている。佐賀県の嬉野に限れば説明もつ

ともであるが、錦町の嬉野にはあてはまらない。佐賀県の嬉野は長崎県境、錦町の嬉野は相良村境である。両者に共通するのは村境界であり、それぞれ県域、町域の末（ウレ）に位置する地名である。

嬉野温泉を県境の地とするのに抵抗感もあろう。温泉街から県境の俵坂番所跡までは数キロの距離があり、嬉野に末（ウレ）の感じがしない。しかし、これは境界線を幾何学的な感覚で認識しようとするからである。境界には間（緩衝地帯）があり、山岳の場合ほど間は広大である。球磨の国有林を間と考えれば、嬉野温泉の地名由来が納得できよう。



【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

【おこわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

社を勧請した所が景勝の地だったので嬉しいと神のお告げがあつた③大定寺の開山大師が岩山に自像を彫つて、ああ嬉野と喜ばれた。

— などの伝承を紹介しながら「言い伝えに過ぎない」としりぞけ、「南九州には山奥に『浦の付く地名』があり、これは末（ウレ）も末（ウレ）も『端・末・先端部』などを意味する古語」であり『萬葉集』に多くの用例がみられる。

シは強調の助詞。ウレシノは塩田川の水源地帯にある野という意で、嬉野は末（ウレ）シ野の佳字である」（要旨）と説明している。

卓説としたのであるが、残念な

球磨川の駅・ものがたり

＝くま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一

■A5判 212頁オールカラー
■定価 1,650円（税込）

ご購入は人吉・球磨の書店、TSUTAYA 八代松江店、博多駅売店、くま川鉄道「くまたび」、道の駅さかもと、発行元の人吉中央出版社にどうぞ。

発行：人吉中央出版社 0966-23-3759

本誌に
31連載が
二冊に
載せられた

球磨川の駅・ものがたり

＝肥前線(川線)とくま川鉄道の各駅探訪＝

熊本産業遺産研究会 松本晋一



編集後記

辛い別れが続いた一年であった。身内の不幸もあったが、本誌の関係者である瀬戸致行さんとの別れも辛かった。いつも優しい笑顔で、人の世話ばかりをされていた印象が残る。12頁からの特集「愛の目差し、瀬戸致行先生逝く」で多くの人の声を紹介させていただいた。2月号にも瀬戸先生の追悼特集を予定しているの、関係者の方々の協力をお願いしたい。★前号でも紹介させていただいたが今年、県近代文化功労者に選ばれた故・渋谷敦さんの業績に関して松本督一さんから寄稿(34頁)をいただいた。40頁の『なば山騒動異聞』を読む①と共に改めて先生の業績を振り返ってみた。★早いものでもう師走、一年があっという間に過ぎていく。来年はオリンピックイヤー、世界中が熱狂するのだろうが、自分の足元を見て地道に歩む一年でありたい。皆様も良いお年を迎えられますように。(ま)

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

- 12月11日(水)
▽人吉労働例会「池山由香&篠原梨恵クリスマスコンサート」(人吉市カルチャーパレス)
12月15日(日)
▽年賀郵便特別扱い開始
▽第67回球磨一周市町村対抗「熊日駅伝」大会(人吉城跡ふるさと歴史のひろばスタート・ゴール)
12月27日(金)
▽官公庁仕事納め
1月1日(水) 元旦
1月3日(金)
▽人吉市成人式(人吉市カルチャーパレス)
1月6日(月)
▽官公庁御用始め
1月7日(火) 七草
1月12日(日)
▽八代市成人式(八代市厚生会館)
1月13日(月) 成人の日



たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの
アイウェア
(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

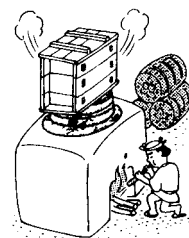
デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の技



◆納豆みそ
(お徳用)
300円 (税抜)



御膳醤油



(だし入り万能しょうゆ)
◆玉子かけご飯
◆豆腐
◆お刺身に
300ml 650円 (税抜)



◆みそ煎餅
477円 (税抜)

人吉散策コース 九州名産 蔵めくら
みそ・しょうゆ蔵



釜田醸造所
会長 釜田 元 嘉頭
社長 釜田 嘉頭

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp